

神戸観光局マーケティング情報

2 0 2 4 年
神 戸 観 光
年 間 レ ポ ー ト

2025年5月12日発行

一般財団法人神戸観光局

はじめに	P. 2
各種データのポイント	P. 3
1. 神戸市内宿泊動向 神戸	P. 4
延べ宿泊客数 / 客室稼働率	
国内・インバウンド推移 / インバウンド国籍割合 / 東アジア各国 時期特性	
エリア別分析 中央区・有馬温泉 / 【参考】全国・関西の動向	
2. 国内OTAモニタリング 神戸	P. 16
概況 / 予約人数 / 客単価・部屋単価 / 予約リードタイム / 属性分析	
3. 全国インバウンド情報 全国	P. 24
訪日外客数 概況 / 消費額 国別・費目別	
4. エアライン・クルーズ船情報 関西 神戸	P. 29
関西国際空港・神戸空港 概況 / 関西国際空港 国別入国者数	
神戸港 クルーズ船 入港隻数・船客数	
5. MICE・観光施設・観光案内所 動向～神戸観光局オリジナルデータ～ 神戸	P. 35
神戸市内MICE 開催総件数	
観光案内所 案内件数 / インバウンド対応割合	
主要観光施設 来場者数	
神戸の観光情報発信ランキング	
コロナ禍からの回復率 神戸 全国	P. 42
アンケートご協力をお願い	P. 44

※ 観光統計情報については、統計の種類によって集計結果が配信されるタイミングに差が生じます。
本レポートではできる限りタイムリーな配信に努めてまいります。発行後にベースの統計結果が変動している場合があります。

神戸観光局の活動に対するご高配、誠にありがとうございます。

JNTOが発表した2024年の訪日外客数が過去最高だった2019年を超え、2025年は4,000万人超えが視野に入ってきたと言われてしています。アフターコロナの2023年は海外からの個人旅行が再開し、3月単月で史上初の300万人を超えてニュースになりましたが、以降も数字は伸び続け、直近2年のインバウンド市場の成長には目を見張るばかりです。

この成長を支えるためには、観光関連のデータ分析・活用が重要であり、神戸観光局が毎月配信している「マンスリーレポート」もその一助として、神戸観光局会員の皆様に活用して頂けていると幸いです。

この度、「2024年 神戸観光年間レポート」を配信いたします。

1年間のデータを見ると、改めて2024年の着実な成長を実感することができます。神戸市内に目を向けてみても、リニューアル施設も次々とオープンし、街の活気が感じられるなか、インバウンド延べ宿泊者数がコロナ前の水準を大きく上回る成長の年となり、神戸観光局が2025年目標値として掲げる100万人まであと一歩となりました。

2025年は神戸空港に国際チャーター便が就航し、神戸観光にとって大きな節目を迎えました。

2030年前後の国際定期便就航を見据えた有効な事業を展開していくためにも、ぜひ一度、この年間データをご覧いただき、昨年1年間の皆様の事業の年間分析・評価にご活用いただければ幸いです。

また、年間レポートの配信とともに「マンスリーレポート 読者アンケート」も昨年に引き続き実施いたします。

皆様からのご意見やフィードバックを通じて、より有益なレポート作成に役立てたいと考えておりますので、ご協力の程、どうぞよろしくお願いいたします。

一般財団法人 神戸観光局
専務理事 小林令伊子

✓ 神戸市延べ宿泊者数

神戸

2024年、神戸市の延べ宿泊者数は国内外合わせて704.6万人に達し、2019年比で110.9%とコロナ前の水準を超えた。中でも外国人延べ宿泊者数の回復が顕著で、年間計95.7万人（2019年比129.5%）と過去最高を記録。神戸観光局が掲げる2025年KPI「外国人延べ宿泊者数100万人」まで、あと一歩に迫っている。

[5ページ〜](#)

✓ 全国訪日外客数及び消費額

全国

2024年年間で、全国の訪日外客数は過去最高の3,687万人を記録し、コロナ前の115.6%を記録。また、2024年訪日外国人の消費額は8.1兆円（2019年比168.8%）とこちらも過去最高を記録。観光・レジャー目的の訪日旅行者に限ると、1人1泊あたりの支出が最も多いのは、中国、香港であった。

[25ページ〜](#)

✓ 神戸港クルーズ船入港状況

神戸

2023年3月よりクルーズ船が本格的に再開し、神戸港へも多数のクルーズ船が入港するようになったが、2024年は、隻数・船客数ともに2019年を下回った。2019年と比べて大型客船の入港は減少傾向だが、代わって定員の少ないラグジュアリークラスなど、グレードの高い客船の割合が増加。

[33ページ〜](#)

✓ 神戸市観光案内所

神戸

三宮・北野・新神戸の観光案内所での対応件数は、2019年と比べて61%となった。3案内所全体のインバウンドの国別対応件数では、2024年1位：中国、2位：台湾・韓国。アジア圏の対応が全体の67%を占めた。新神戸案内所は欧米豪の割合が35%を占めるなど、案内所それぞれの立地の特徴が表れている。

[38ページ〜](#)

✓ 神戸市国内OTA実績

神戸

2024年通年の実績を2019年と比較すると、人泊数は108.5%、宿泊単価は115.2%と、昨年に続き単価の上昇が継続している。一方で、1月・5月（GW）・8月（夏休み）は、他の月に比べて人泊数の回復がやや鈍化。特に、これまで国内旅行の繁忙期であったゴールデンウィークや夏休みの動きが鈍い要因として、宿泊単価の上昇が影響していると考えられる。

[17ページ〜](#)

✓ 関西国際空港国際線利用状況

関西

国際線全体の発着回数は2019年比92%まで回復。国際線旅客数のうち、外国人旅客数は1,892万人で暦年として過去最高を記録するなど、国際線旅客数全体の回復を強くけん引した結果、国際線旅客数全体として2019年比96%まで回復が進んでいる。

[30ページ〜](#)

✓ 神戸市内MICE開催状況

神戸

2024年度（4月～3月）はコロナ前（2019年度）の92.6%まで開催件数が回復。5000人以上の大型会議も継続して開催された。市内開催状況を月別に見ると、6月・10～11月・1～2月に開催件数が増加。いわゆる観光のトップシーズンを避けた時期にMICEが開催されることで、市内の観光需要の喚起・需要の平準化に繋がっている。

[36ページ〜](#)

✓ 神戸市内主要観光施設来場者数

神戸

2024年時点で改修中等の施設を除いて分析すると、3～5月を除くすべての月でコロナ前を超える回復を記録した。2024年はリニューアルオープンした施設が話題となるなど、回復をけん引した。施設からは、インバウンド旅行者が徐々に戻っており、客層はアジア圏が中心との声を聞いている。

[40ページ〜](#)

1. 神戸市内宿泊動向

神戸市内宿泊動向：延べ宿泊客数

2024年1～12月 神戸市全体 延べ宿泊者数 **拡大推計値・速報**

全体 **704.6万人泊** (2019年比：110.9%、前年比：103.4%)

※2019年年間：635.1万人
※2023年年間：681.5万人

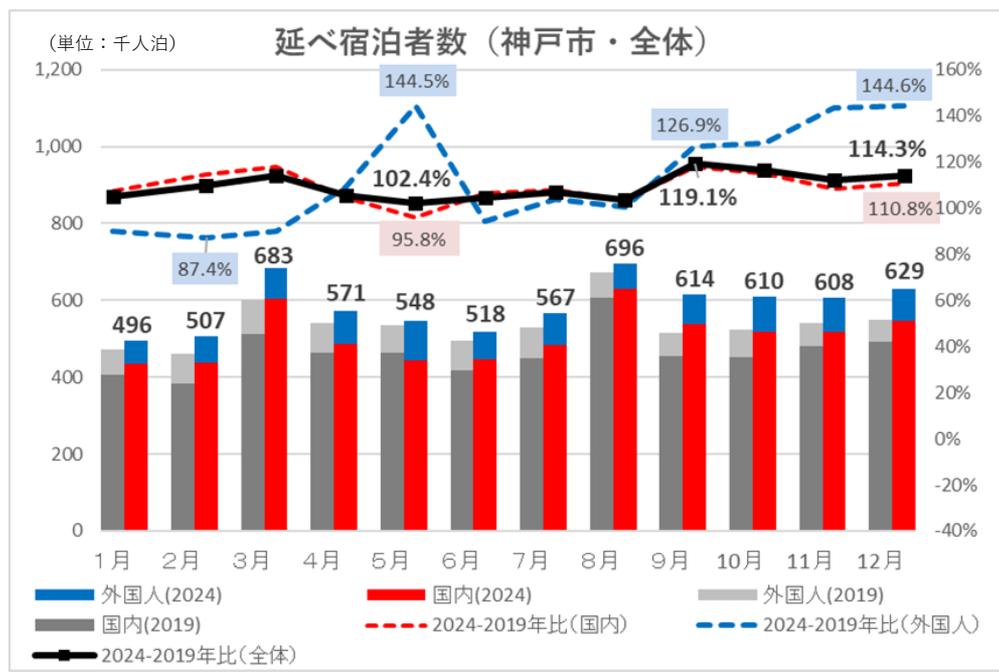
国内 **608.9万人泊** (2019年比：108.5%、前年比：98.2%)

※2019年年間：561.2万人
※2023年年間：620.0万人

外国人 **95.7万人泊** (2019年比：129.5%、前年比：155.6%)

※2019年年間：73.9万人
※2023年年間：61.5万人

出典：観光庁「宿泊旅行統計調査」令和6年各月2次速報公表データを基に神戸観光局で拡大推計値を独自試算
※上記2019年延べ宿泊者数 出典：「観光予報プラットフォーム」より集計



延べ宿泊者数		2023年	2024年	2025年
KPI	全体	630.0万人	635.0万人	690.0万人
	(インバウンド)	-	-	(100.0万人)
実績値	全体	681.5万人	704.6万人	
	(インバウンド)	(61.5万人)	(95.7万人)	

- 2024年年間で704.6万人泊と過去最高の人泊数を記録。2024年KPI 延べ宿泊者数635万人を約111%達成。国内・インバウンドともにコロナ前の人泊数を上回り、延べ宿泊者数に関してはコロナ禍からの完全復活を遂げたと言える。
- 2024年目標：「外国人延べ宿泊者数年間80万人泊」を達成。神戸観光局 KPI「2025年：外国人延べ宿泊者数100万人」にも迫る、過去最高値を記録した。
- 一方、2019年と比較すると市内客室数は増加している。稼働率向上・安定のため一層の誘客が必要。
- 国籍別は1位：中国、2位：台湾、3位：韓国。東アジア圏で全体の65%を占める。

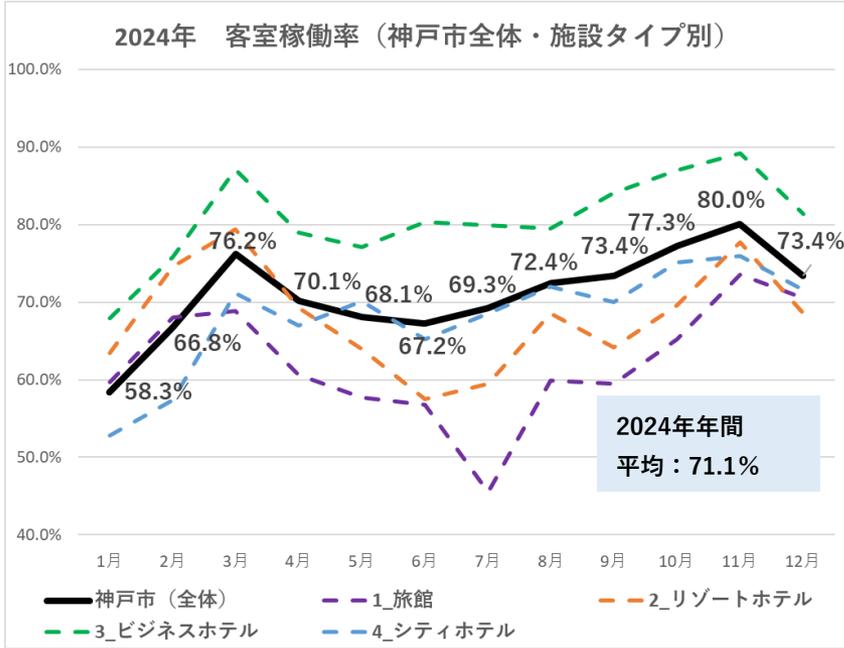
出典：観光庁「宿泊旅行統計調査」令和1年・令和5年確定値調査票個別データ、令和6年各月2次速報公表データを基に神戸観光局で拡大推計値を独自試算

・ 2024年1～12月 神戸市全体 客室稼働率

拡大推計値・速報

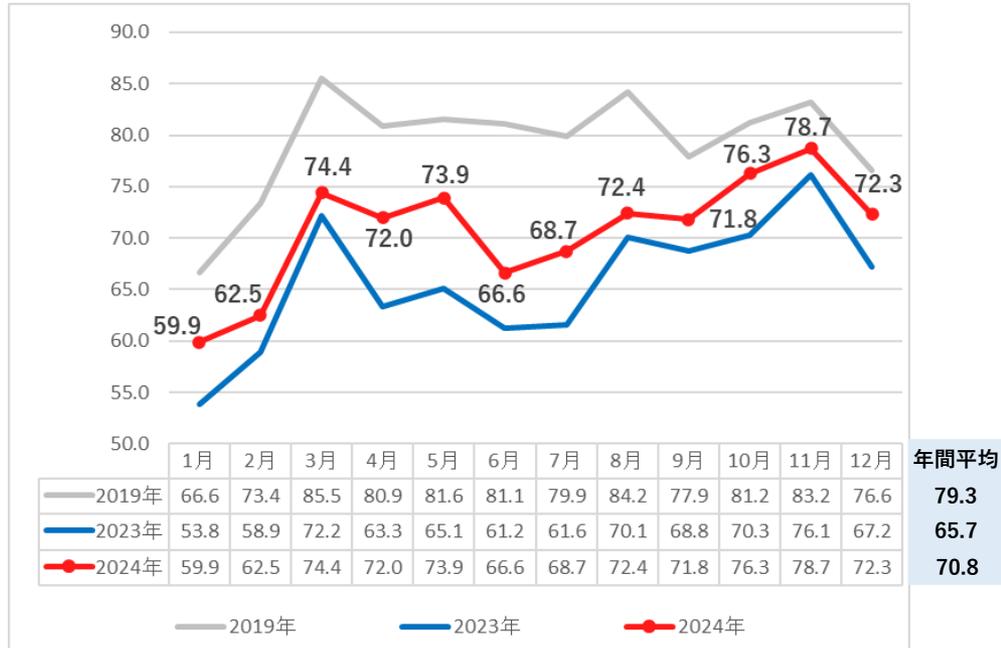
【参考】
都市型ホテルの
客室稼働率目安
80% 良好 / 70% 普通

【調査A】 市内ホテル平均客室稼働率 宿泊施設タイプ別



出典：【神戸市】観光庁「宿泊旅行統計調査」
令和6年1月～12月 各月2次速報調査票個別データより分析

【調査B】 市内ホテル平均客室稼働率推移



出典：日本銀行神戸支店「管内金融経済概況」

※10社ベース

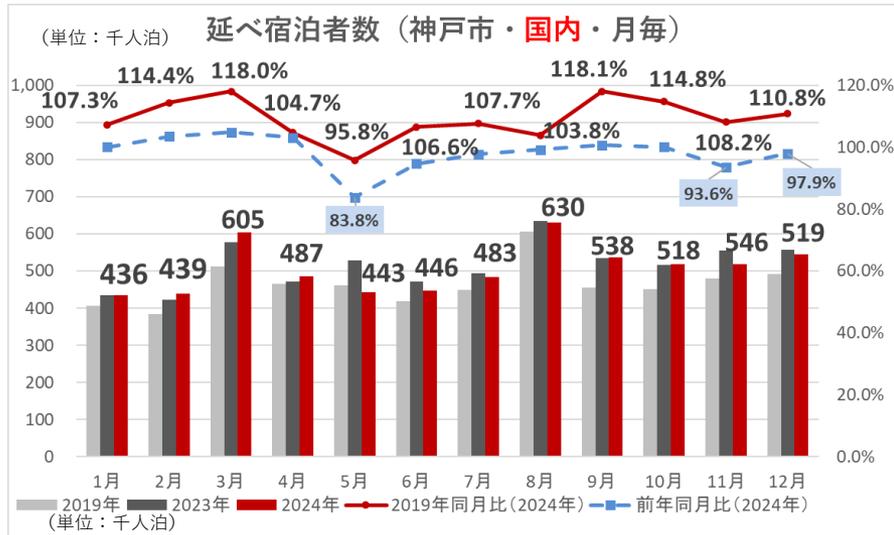
- ・ 11月には市内全体の稼働率が約80%に到達。（調査A：80.0%、調査B：78.7%）
- ・ 延べ宿泊者数はコロナ前を超えていても、市内客室数がコロナ前（2019年）から増加しているため、客室稼働率はコロナ前の水準には戻っておらず、稼働率向上・安定のため一層の誘客は必要。
- ・ ただ、2024年前半時点では、2019年と約10ポイントあった差が、最新の2024年10～12月の差は5ポイント未満となっており、確実な回復が伺える。

神戸市内宿泊動向：国内・インバウンド推移

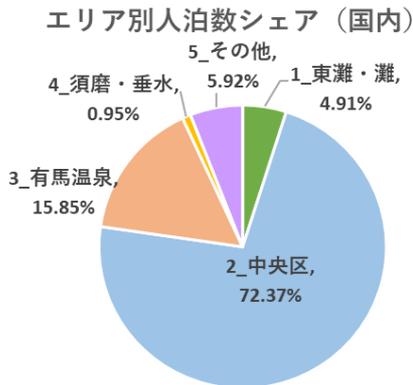
・ 2024年1～12月 神戸市全体（国内・インバウンド別）

拡大推計値・速報

【国内】



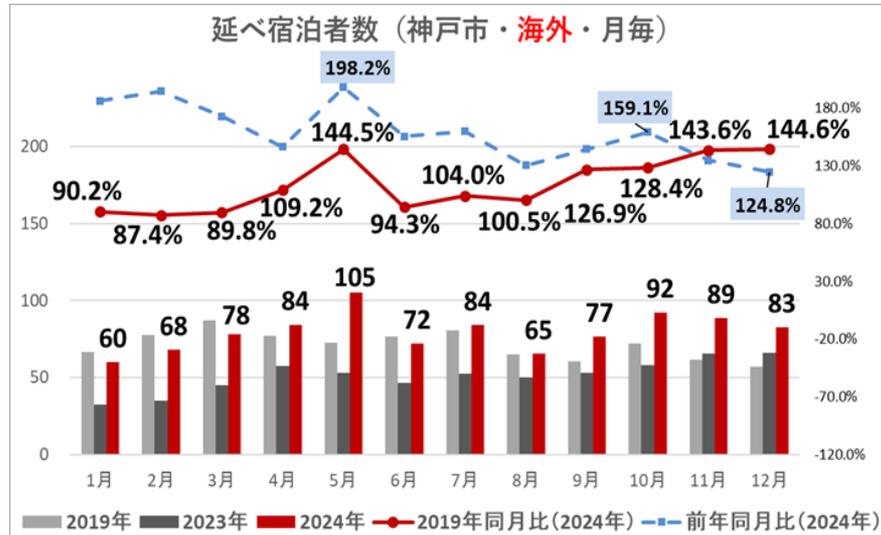
年間平均泊数：1.27泊 ※ 2023年年間：1.28泊



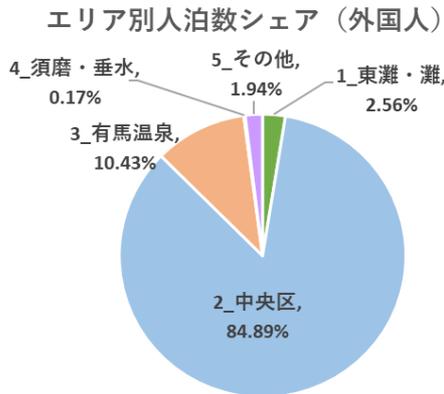
国内はコロナ前を超えて回復が続く。5月は宿泊単価増によりGWが思ったより伸びにくかったこと、パラ陸上等により市内ホテルのインバウンドシェアが上がったことから、唯一2019年を下回った。またインバウンドがコロナ前を超える回復であった余波か、国内は前年の人泊数を下回る月があった。

上線グラフ出典：観光庁「宿泊旅行統計調査」
令和1年・令和5年確定値調査票個別データ、
令和6年2次速報公表データを基に神戸観光局で拡大推計値を独自試算

【インバウンド】



年間平均泊数：1.49泊 ※ 2023年年間：1.48泊



4月以降はコロナ前水準に回復し、11月～12月には遂にコロナ前の1.4倍に。全体におけるインバウンドのシェア率も年間全体で2019年と同水準まで回復した。総計が95万人を超え、2024年目標：80万人を達成。2025年の目標：100万人まであと少しまで迫った。

下円グラフ出典：【神戸市】観光庁「宿泊旅行統計調査」
令和6年1月～12月 各月2次速報調査票個別データより分析

神戸市内宿泊動向：インバウンド国籍割合

神戸

外国人

・ 2024年1～12月 神戸市全体

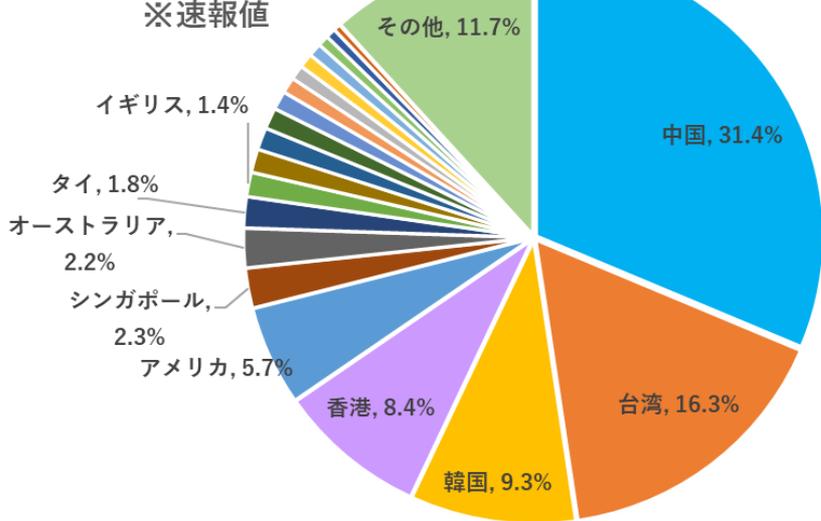
拡大推計値・速報

【国籍別分析】

神戸市（全体） 外国人延べ宿泊者数

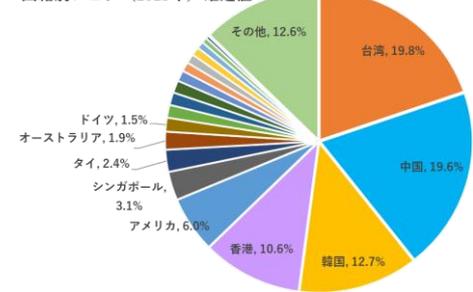
国籍別シェア（2024年）

※速報値



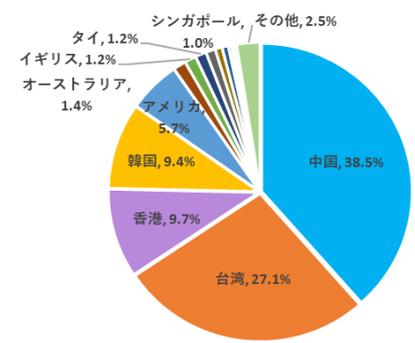
神戸市（全体） 外国人延べ宿泊者数

国籍別シェア（2023年）確定値



神戸市（全体）外国人延べ宿泊者数

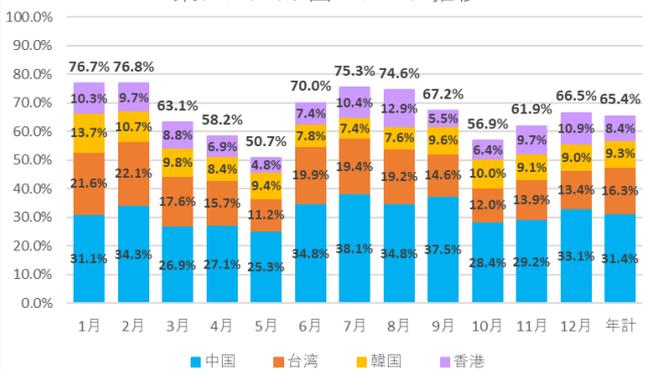
国籍別シェア（2019年）※観光子報PF



順位	国	1～12月
1	中国	31.4%
2	台湾	16.3%
3	韓国	9.3%
4	香港	8.4%
5	アメリカ	5.7%
6	シンガポール	2.3%
7	オーストラリア	2.2%
8	タイ	1.8%
9	イギリス	1.4%
10	フランス	1.3%
11	ドイツ	1.3%
12	カナダ	1.2%
13	マレーシア	1.1%
14	インド	0.9%
15	フィリピン	0.8%
16	スペイン	0.8%
17	ベトナム	0.7%
18	インドネシア	0.6%
19	イタリア	0.6%
20	ロシア	0.4%
21	その他	11.7%

【インバウンド比率推移】

東アジア4か国 シェア推移



延べ宿泊者数（神戸・外国人シェア率）



桜鑑賞や紅葉鑑賞等により欧米豪が増える時期には東アジアのシェア率が低下するものの、年間を通して約65%が東アジアからの宿泊となった。

出典：【神戸市】観光庁「宿泊旅行統計調査」
令和元年・令和5年確定値調査票個別データ、
令和6年2次速報調査票個別データより分析

神戸市内宿泊動向：東アジア各国 時期特性

神戸

外国人

2024年
神戸観光
年間レポート

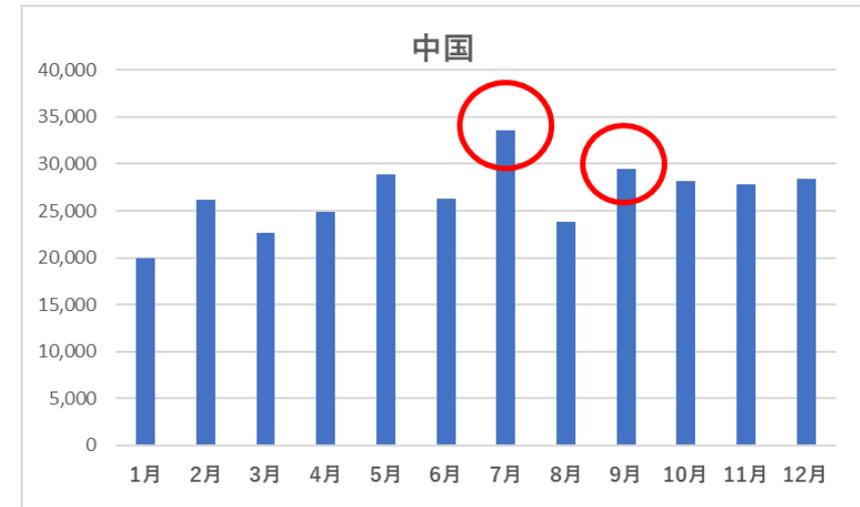


・ 2024年1～12月 神戸市全体 ～東アジア各国のピーク時期を分析～

拡大推計値・速報

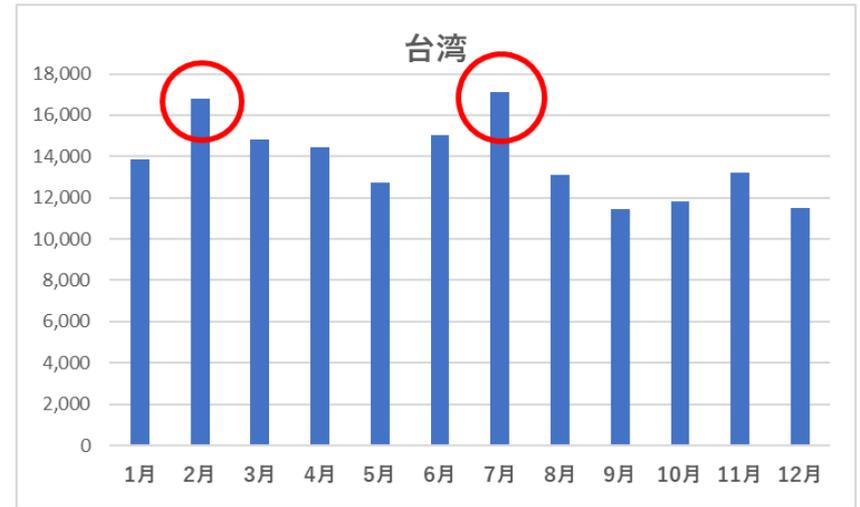
【中国】

ピーク時期：7月、9月～12月



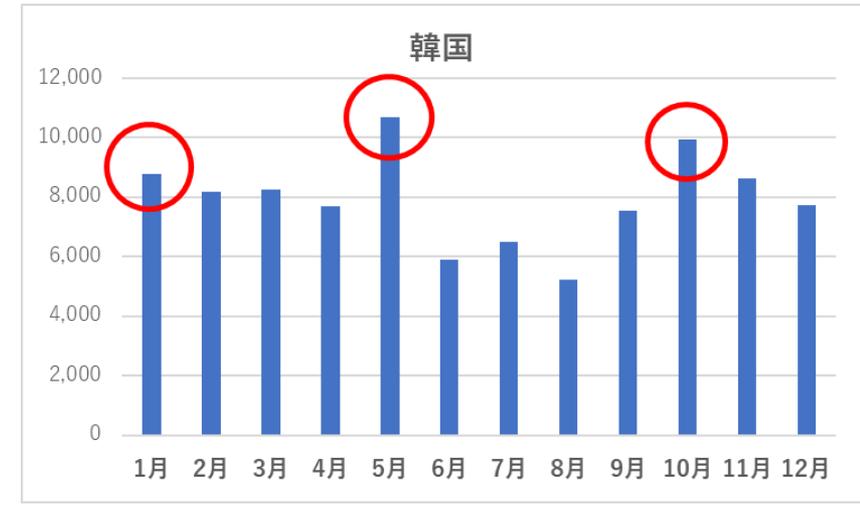
【台湾】

ピーク時期：2月、7月



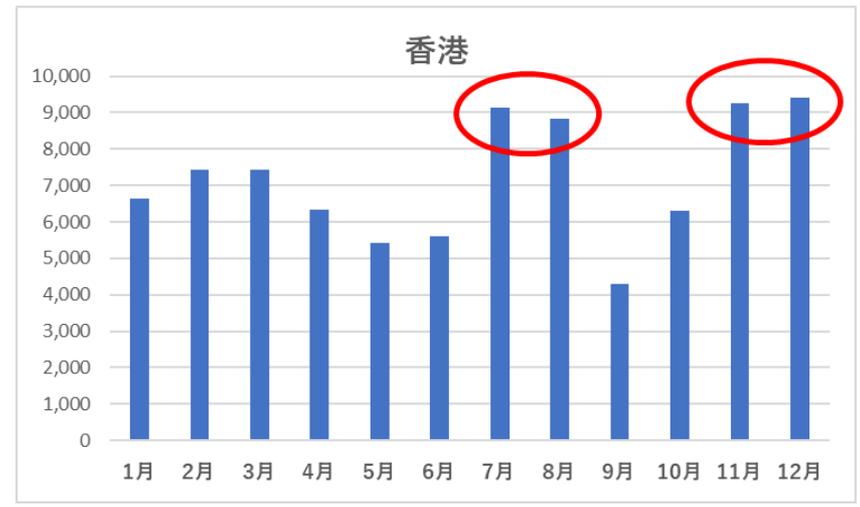
【韓国】

ピーク時期：1月・5月・10月



【香港】

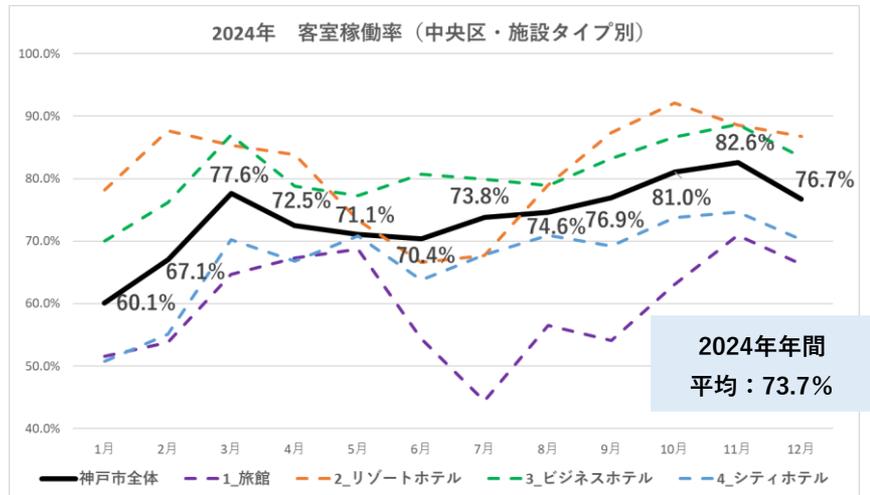
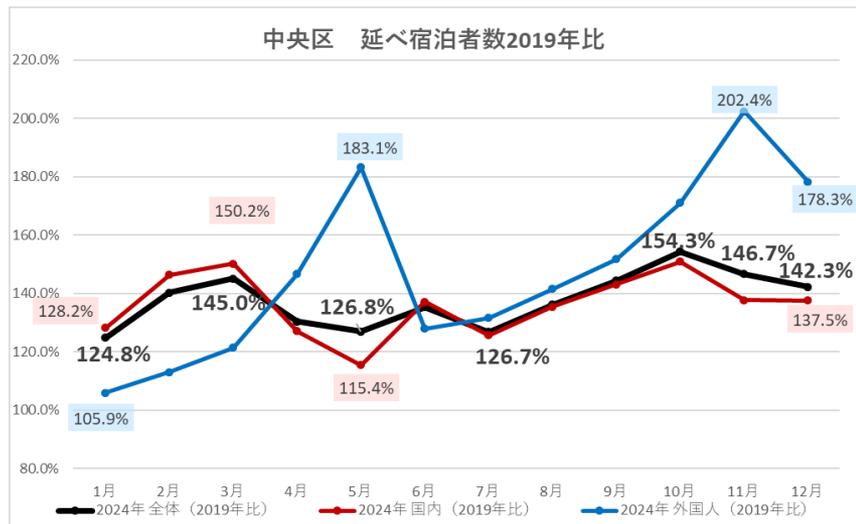
ピーク時期：7・8月、11・12月



出典：【神戸市】観光庁「宿泊旅行統計調査」令和6年 各月2次速報調査票個別データより分析

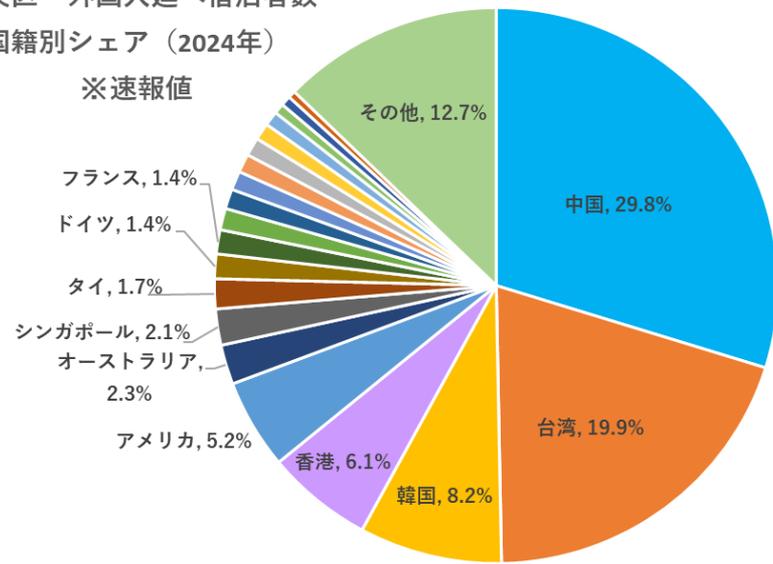
・2024年1～12月 中央区 宿泊動向

拡大推計値・速報

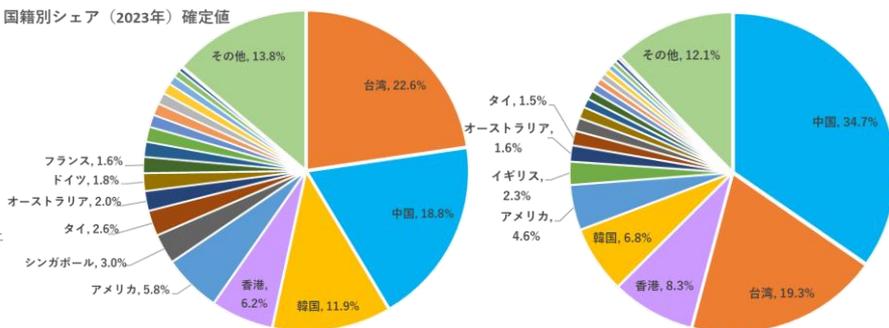


【国籍別分析】

中央区 外国人延べ宿泊者数 国籍別シェア (2024年) ※速報値



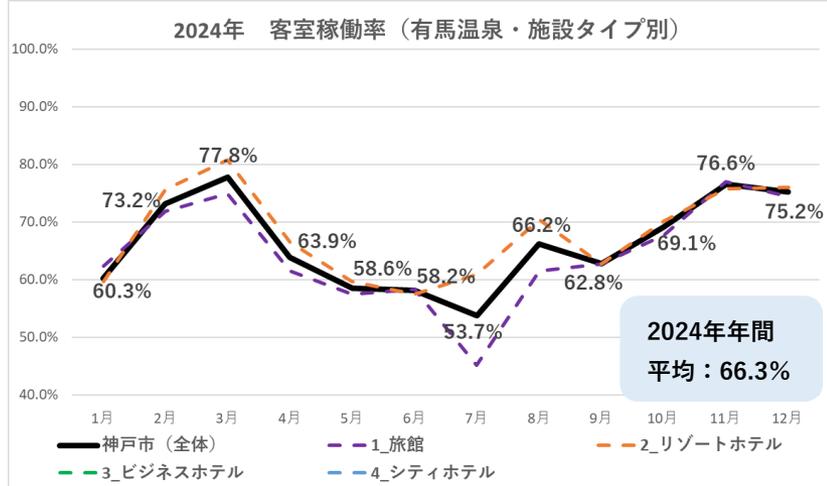
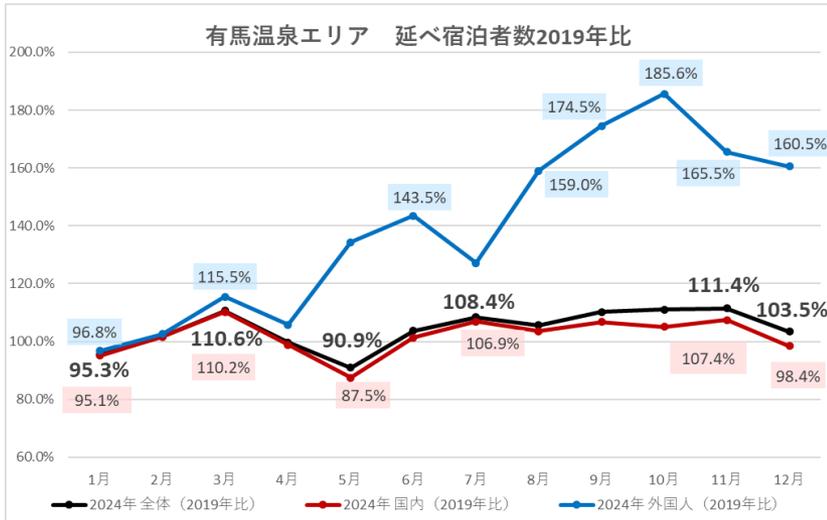
中央区 外国人延べ宿泊者数 国籍別シェア (2019年) 確定値



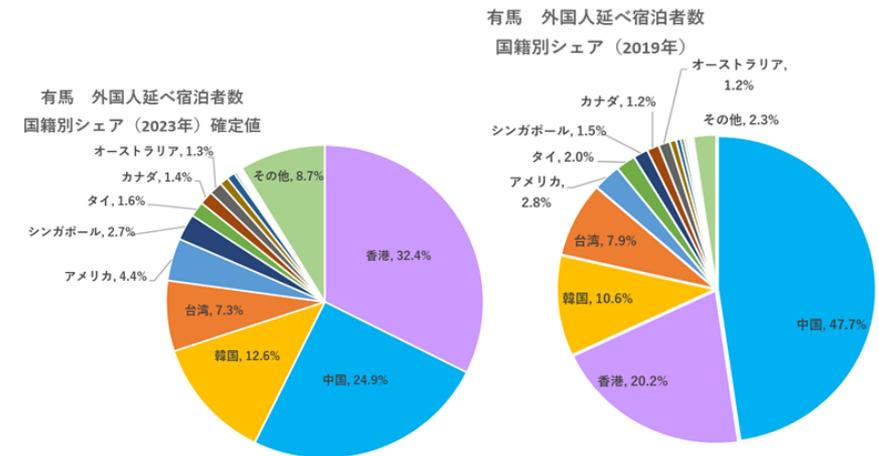
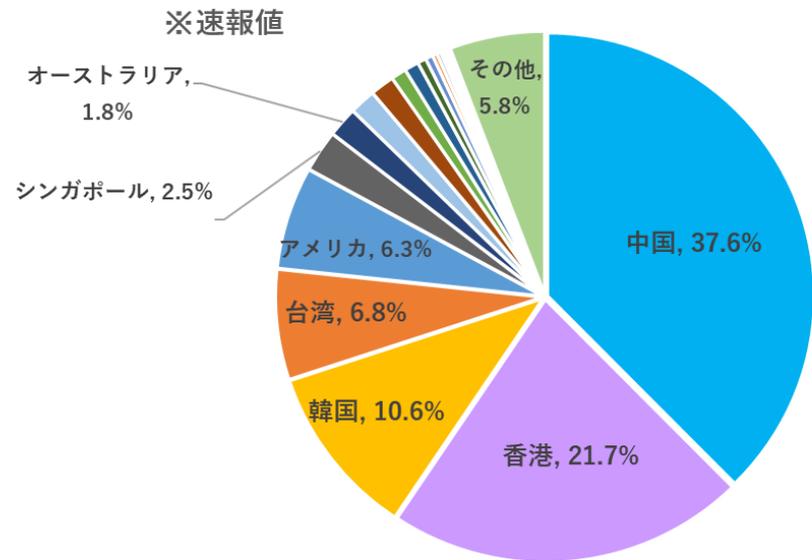
出典：【神戸市】観光庁「宿泊旅行統計調査」令和元年・令和5年確定値調査票個別データ、令和6年2次速報調査票個別データより分析

- ・【2019年比】全体：137.8%、国内：136.2%、外国人：146.6%
- ・年間インバウンドシェア：16.1%
- ・国籍別では、1位：中国、2位：台湾で全体の半数を占める

2024年1~12月 北区有馬町宿泊動向 拡大推計値・速報



【国籍別分析】 有馬 外国人延べ宿泊者数 国籍別シェア (2024年) ※速報値



出典：【神戸市】観光庁「宿泊旅行統計調査」
令和元年・令和5年確定値調査票個別データ、令和6年2次速報調査票個別データより分析

- ・【2019年比】全体：104.5%、国内：102.2%、外国人：130.5%
- ・年間インバウンドシェア：10.3%
- ・国籍別では、1位：中国、2位：香港で、全体の6割を占める

【参考】全国年間延べ宿泊者数

全国 国内 外国人

2024年1～12月 全国の延べ宿泊者数

拡大推計値・速報

※確定値は2025年6月末 観光庁より公表予定

全体

6億5,028万人泊 (2019年比：109.1%、前年比：105.3%)

国内

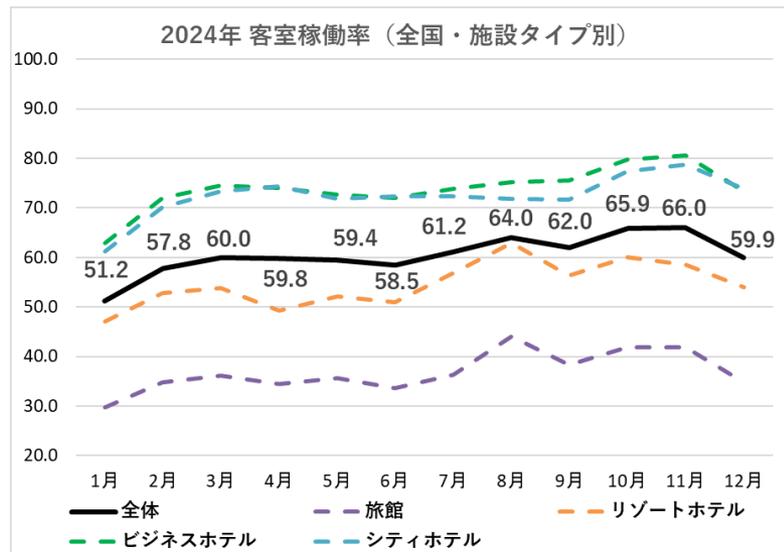
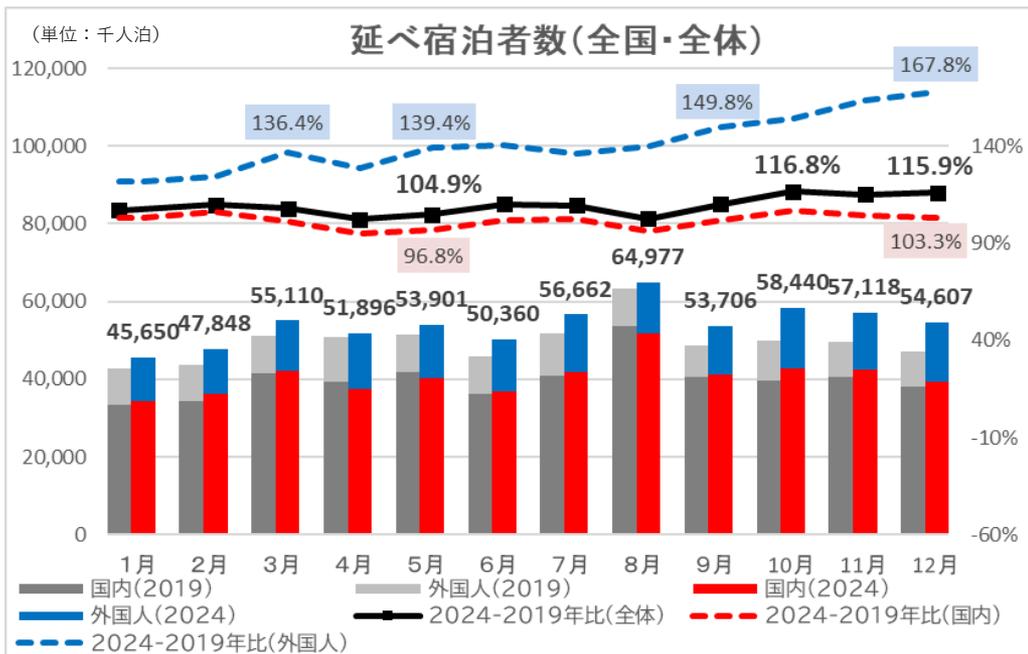
4億8,668万人泊 (2019年比：101.3%、前年比：97.4%)

外国人

1億6,360万人泊 (2019年比：141.5%、前年比：138.9%)

出典：観光庁「宿泊旅行統計調査」令和6年各月2次速報公表データ
令和元年確定値、令和5年確定値データ

- 2024年間で6億5000万人泊と過去最高の人泊数を記録。
- インバウンドの回復が著しく、コロナ前の1.4倍となる1億6360万人泊、過去最高値を記録した。
- インバウンドが好調な中、宿泊費の高騰等により、国内旅行者は前年を超えなかった。
- 客室稼働率は年間平均：60.5%。2019年の年間平均まであと2.2%まで迫った。



2024年年間
平均：60.5%

出典：観光庁「宿泊旅行統計調査」令和1年・令和5年確定値、令和6年各月2次速報公表データ

・ 2024年1～12月 外国人延べ宿泊者数

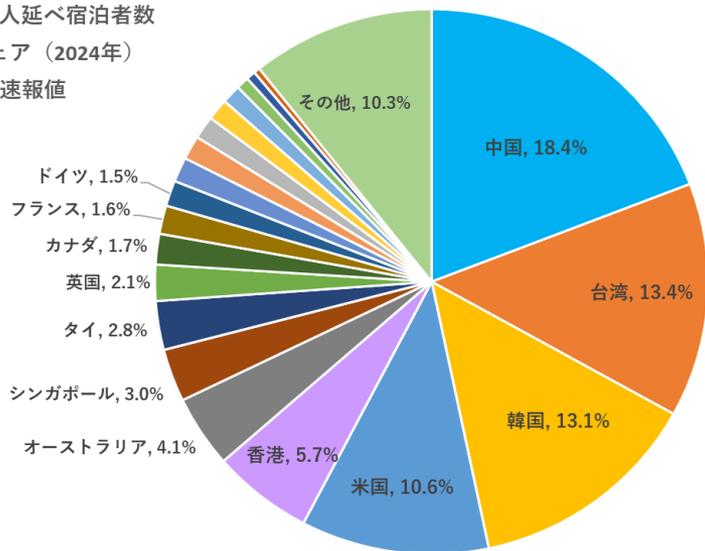
拡大推計値・速報

【国籍別分析】

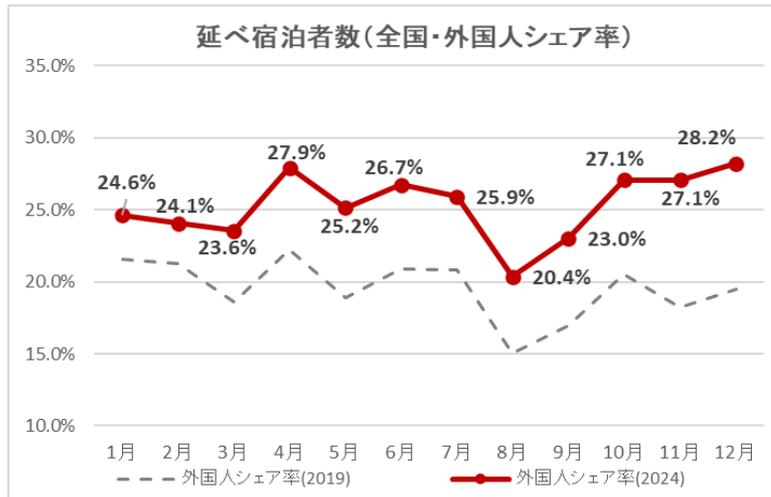
全国 外国人延べ宿泊者数

国籍別シェア（2024年）

※速報値



【インバウンド比率推移】



順位	国籍（出身地）	合計		2019年比	前年比
		(万人泊)	シェア		
第1位	中国	25,059,920	18.4%	-16.0%	+129.7%
第2位	台湾	18,174,100	13.4%	+34.9%	+37.4%
第3位	韓国	17,814,030	13.1%	+83.4%	+24.9%
第4位	米国	14,371,820	10.6%	+97.5%	+35.9%
第5位	香港	7,706,030	5.7%	+10.4%	+13.7%
第6位	オーストラリア	5,593,150	4.1%	+82.4%	+57.5%
第7位	シンガポール	4,093,810	3.0%	+66.8%	+16.0%
第8位	タイ	3,784,160	2.8%	+5.0%	+12.9%
第9位	英国	2,800,610	2.1%	+33.8%	+46.1%
第10位	カナダ	2,368,500	1.7%	+108.8%	+39.2%
第11位	フランス	2,206,600	1.6%	+41.1%	+45.1%
第12位	ドイツ	1,984,610	1.5%	+72.4%	+43.5%
第13位	フィリピン	1,910,990	1.4%	+63.8%	+27.3%
第14位	インドネシア	1,844,960	1.4%	+34.5%	+23.4%
第15位	マレーシア	1,780,100	1.3%	+30.7%	+18.5%
第16位	イタリア	1,661,090	1.2%	+78.0%	+63.2%
第17位	スペイン	1,459,830	1.1%	+71.0%	+69.4%
第18位	インド	976,500	0.7%	+61.0%	+56.1%
第19位	ベトナム	703,070	0.5%	-8.6%	-5.4%
第20位	ロシア	470,630	0.3%	+0.6%	+147.2%
	その他	14,003,830	10.3%	+50.6%	+39.3%
合計		136,098,660	100.0%	+34.3%	+43.2%

出典：観光庁「宿泊旅行統計調査」

令和元年・令和5年確定値、令和6年各月2次速報
2024年（令和6年）年間値（速報値）報道発表資料

<https://www.mlit.go.jp/kankocho/content/001867860.pdf>

- ・ 国籍（出身地）別外国人延べ宿泊者数は、第1位が中国、第2位が台湾、第3位が韓国、第4位が米国、第5位が香港で、上位5カ国・地域で全体の61.1%を占める。
- ・ 前年比においてはロシア（+147.2%）、中国（+129.7%）等が大幅に増加している。

【参考】 関西 年間延べ宿泊者数 推移・都道府県別

関西

国内

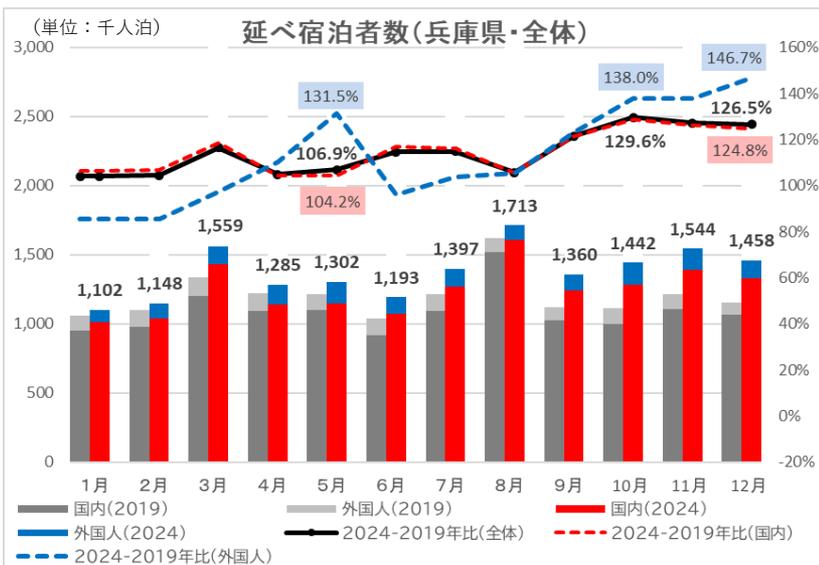
外国人

2024年
神戸観光
年間レポート



【兵庫県】 ※参考：年間平均 客室稼働率 58.3%

拡大推計値・速報



兵庫県

全体：1650万人泊（2019年比114.5%、前年比109.1%）
国内：1499万人泊（2019年比114.7%、前年比106.0%）
外国人：153万人泊（2019年比112.3%、前年比151.0%）

大阪府

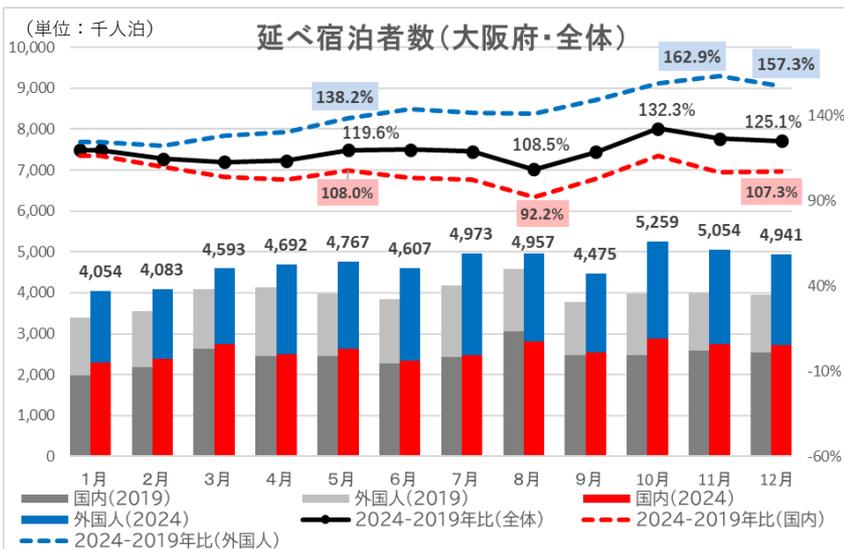
全体：5646万人泊（2019年比119.0%、前年比111.3%）
国内：3112万人泊（2019年比105.5%、前年比97.4%）
外国人：2534万人泊（2019年比141.3%、前年比135.1%）

京都府

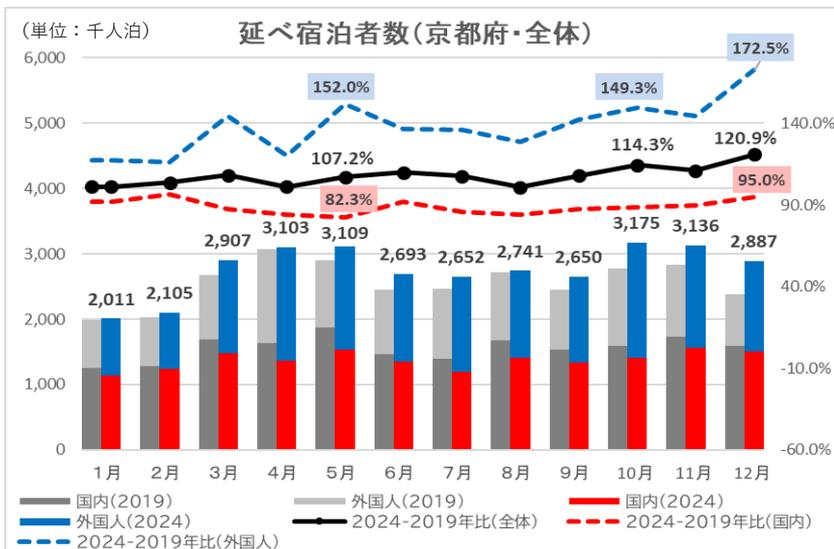
全体：3317万人泊（2019年比107.9%、前年比103.2%）
国内：1656万人泊（2019年比88.4%、前年比82.8%）
外国人：1661万人泊（2019年比138.2%、前年比136.9%）

- 兵庫県は、国内・インバウンド共にコロナ前及び前年を上回った。
- 大阪府と京都府は、インバウンドの伸びに対して、国内が前年もしくはコロナ前を下回る水準となっている。

【大阪府】 ※参考：年間平均 客室稼働率 75.8%



【京都府】 ※参考：年間平均 客室稼働率 63.5%



【参考】 関西 インバウンド国籍割合・都道府県別

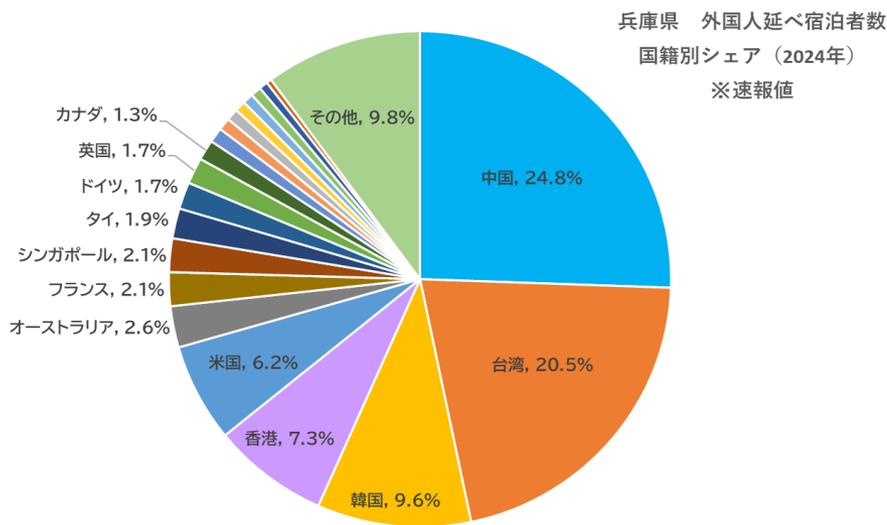
関西

外国人

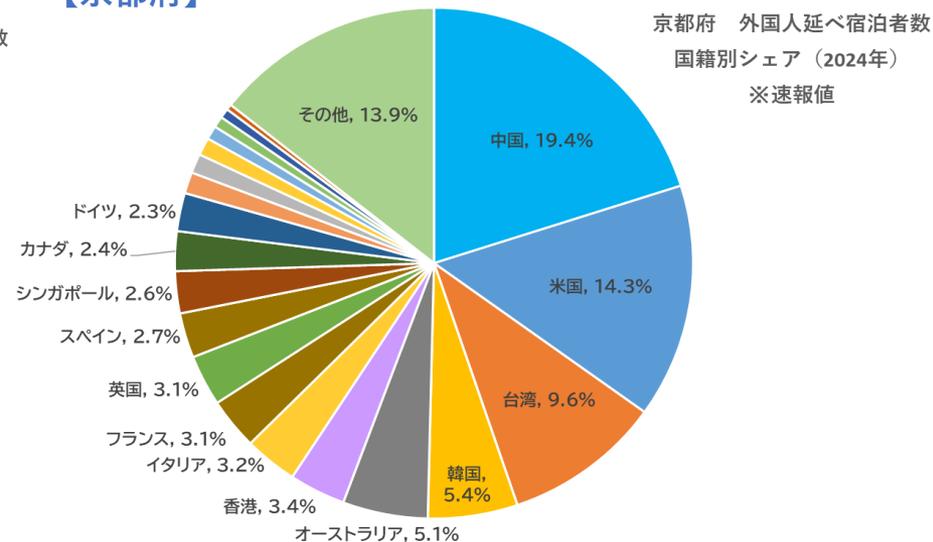
2024年
神戸観光
年間レポート



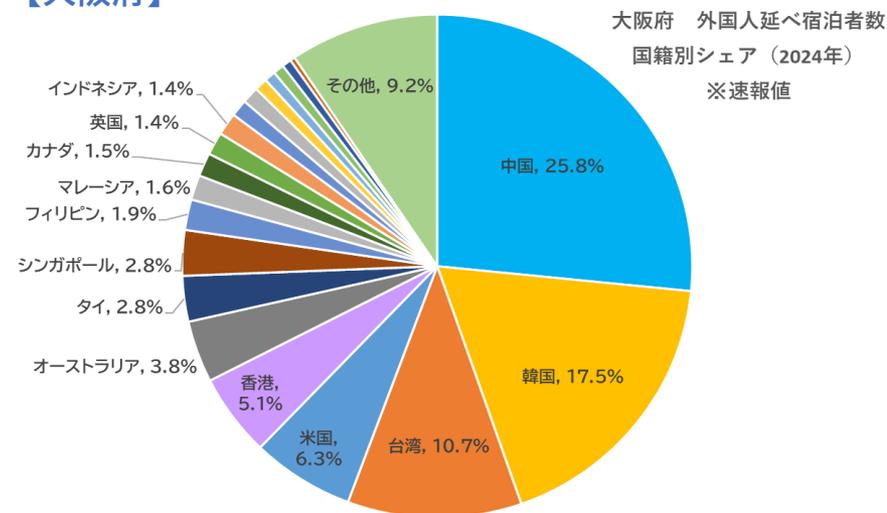
【兵庫県】



【京都府】

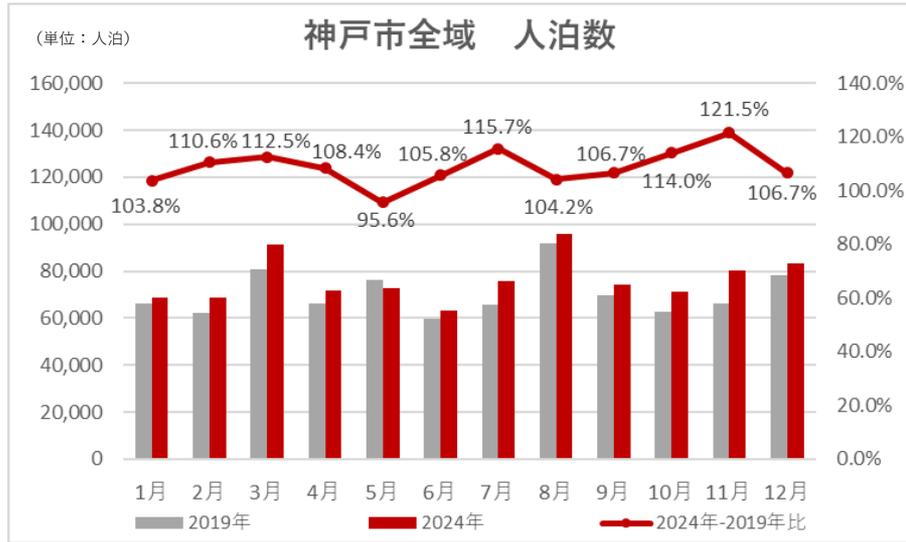


【大阪府】



- 関西圏においては、各都道府県で国籍の特徴が表れている。
- 兵庫県は東アジアが62%を占め、うち、中国・台湾の比率が高い。
- 大阪府は中国・韓国など東アジアをメインとしつつ、東南アジアからの来訪も目立っている。
- 京都府は欧米豪の割合が高くなっており、中国に次いで米国が14%を占めている。

2. 国内OTAモニタリング



人泊数
2024年年間 2019年比：108.5%

年間平均客単価
2024年 年平均 2019年比：115.2%

- 2024年年間では、神戸の国内観光におけるOTA実績について、取扱額(=人泊数×客単価)は堅調に推移。
- 全エリア・クラスにおいて、物価高騰等やインバウンド需要の高まりで客単価が上昇。2024年の年間平均は、約10,600円だった2019年と比較すると115.2%となる、12,248円を記録した。
- 人泊数については、コロナ前に届かなかった前年2023年からさらに回復し、年間の延べ宿泊者数は2019年比108.5%の回復となった。
- 全体的に1月、5月(GW)、8月(夏休み)の人泊数が他の月と比較してコロナからの回復が鈍化。GWや夏休みなど、これまで国内旅行の繁忙期であった時期の動きが鈍くなっている原因は、やはり宿泊単価の上昇によるものではないかと考えている。

※OTAとは、「Online Travel Agent」の略称。オンライン上のみで旅行商品等を販売する旅行会社のこと。代表的な国内OTAは、じゃらんnet、楽天トラベル、一休、JTBるぶトラベル等。上記で掲載しているデータは、某国内大手OTA経由の状況を掲載。神戸市内の宿泊施設 約150施設への月別データ(チェックアウトベース)となっている。よって、国内旅行者の全ての販路を集計しているわけではないが、特に平日のビジネス需要も含めた個人旅行の傾向を分析するには有効なものと考えている。

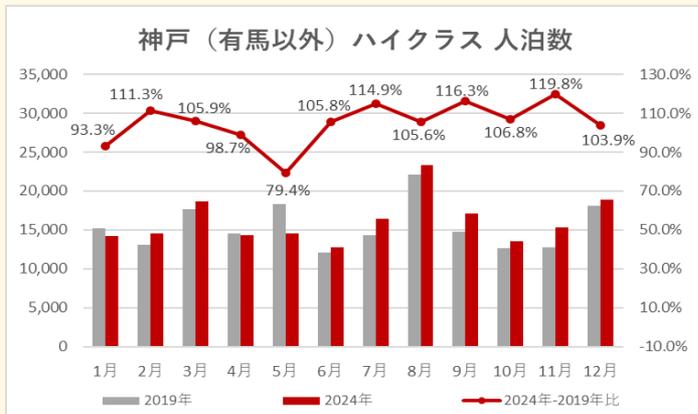
・ 予約人数（エリア別・グレード別）

ハイクラス

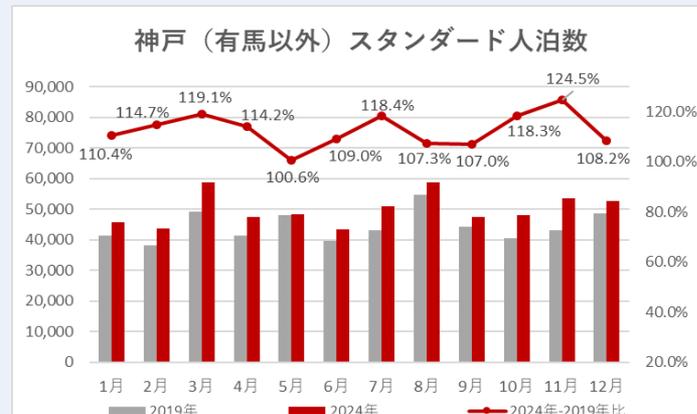
スタンダード

【市街地】

※有馬温泉除く
神戸市内

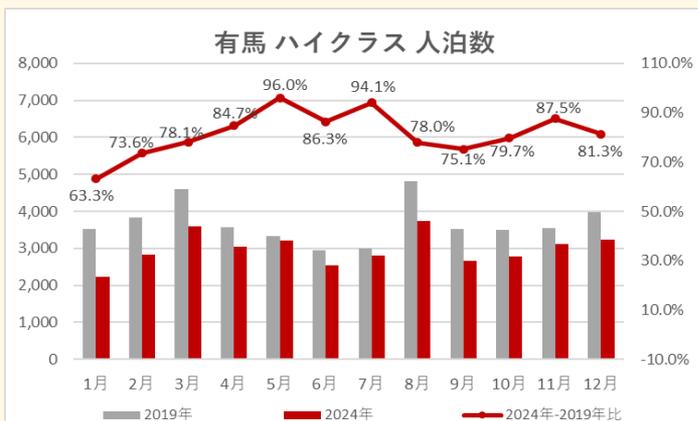


2024年年間 2019年比：104.4%

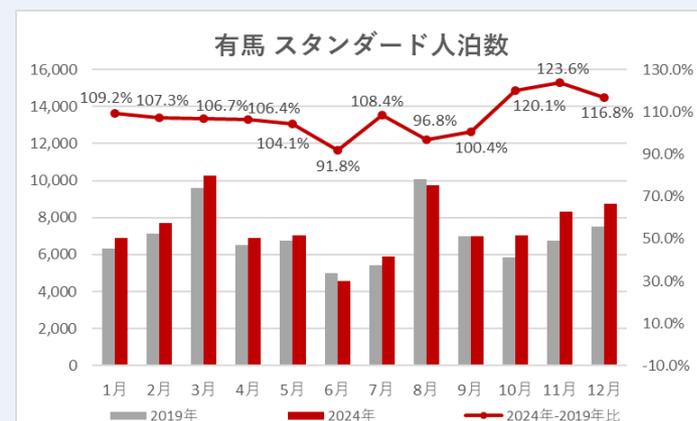


2024年年間 2019年比：112.4%

【有馬温泉】



2024年年間 2019年比：81.0%

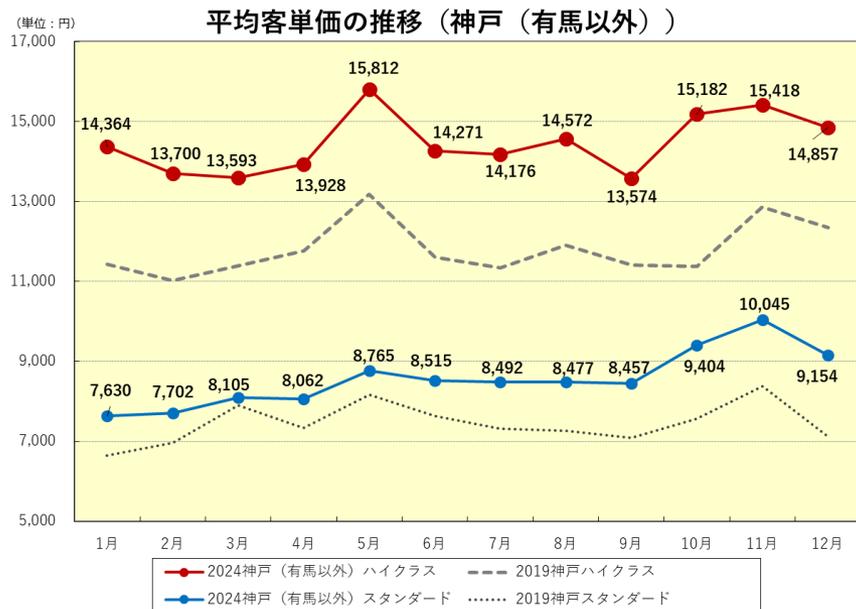


2024年年間 2019年比：107.4%

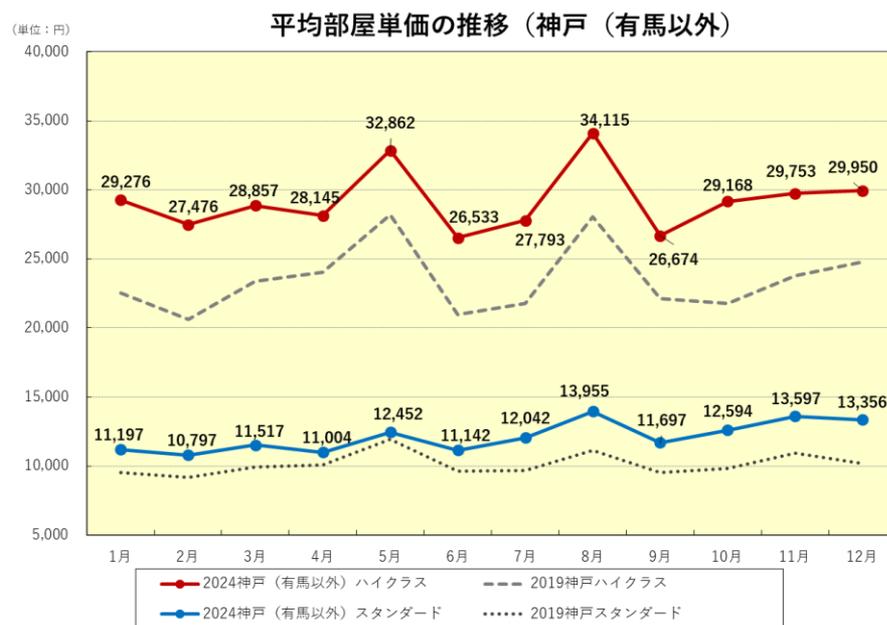
- 人泊数については、有馬・神戸エリアともにスタンダードホテルは順調に回復し、コロナ前の110%前後まで回復。神戸ハイクラスにおいては、コロナ前水準まで人泊数も回復。
- 有馬ハイクラスは、国内OTAの人泊数がコロナ前を下回る。有馬は当該国内OTAにおいて、宿泊単価が日本の温泉地で1位となっている。このことから、このグラフに含まれていないインバウンド旅行者が増加していると見られる。

市街地エリア 単価推移

【平均客単価】



【平均部屋単価】



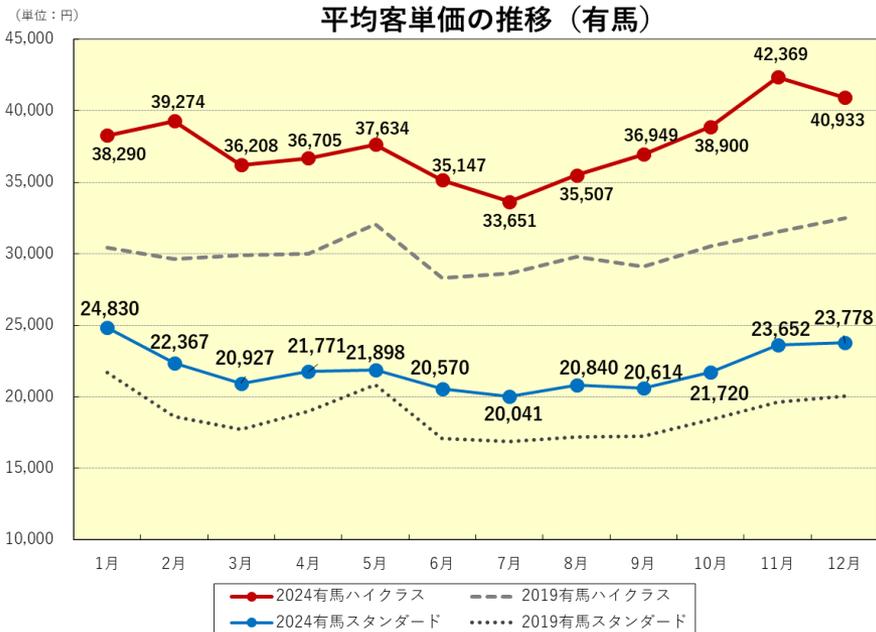
- 物価高騰等の影響で、コロナ前と比較すると平均単価の高止まりが続く。
- 2019年との比較では、2024年年間平均で見ると、神戸ハイクラスで2019年比122.5%、スタンダードで2019年比115.0%となった。
- 前年2023年との比較では、神戸ハイクラス・スタンダードともに前年比約101~106%と前年並みもしくは微増となった。
- ハイクラスにおいては、5月、10-11月の単価上昇が顕著。スタンダードでは、11月に単価が1万円代となった。5月はGWに加え、世界パラ陸上の開催（選手団の宿泊等）があり、単価の上昇に拍車がかかった。

- ゴールデンウィーク（5月）、夏休み（8月）にグループサイズが大きくなる影響で、部屋単価は上昇する。
- 客単価も同様だが、スタンダードよりもハイクラスの方が、2019年と比較して単価の上昇幅が大きいことが分かる。

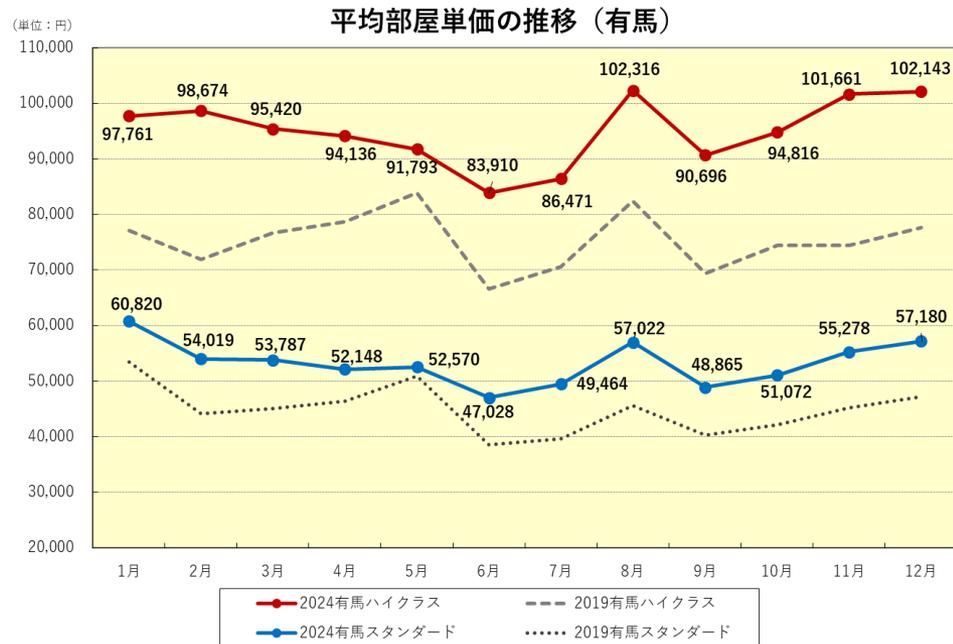
有馬温泉除く神戸市街地エリアにおいては、客単価・客室単価ともに19年比を上回る数値で推移している。

・有馬温泉エリア 単価推移

【平均客単価】



【平均部屋単価】



- ・物価高騰、人手不足などの影響もあり、平均単価の高止まりが続く。
- ・インバウンド需要の高まりからか、ハイクラスにおいては、行楽シーズンである11月が単価のピークとなった。
- ・2019年との比較では、2024年の年間平均で見ると有馬ハイクラスで2019年比124.6%、スタンダードで2019年比117.2%となった。
- ・前年2023年との比較では、神戸ハイクラス・スタンダードともに前年比約103～104%と前年より微増程度となった。

- ・11月～3月にかけての冬期、夏休み（8月）にかけて部屋単価が上昇傾向。
- ・2019年の年間平均が約75,000円だった有馬ハイクラスの部屋単価は、2024年の年間平均では約95,000円まで上昇。

有馬温泉エリアにおいても、客単価・客室単価ともに19年比を上回る数値で推移している。

・ 予約リードタイム

ハイクラス

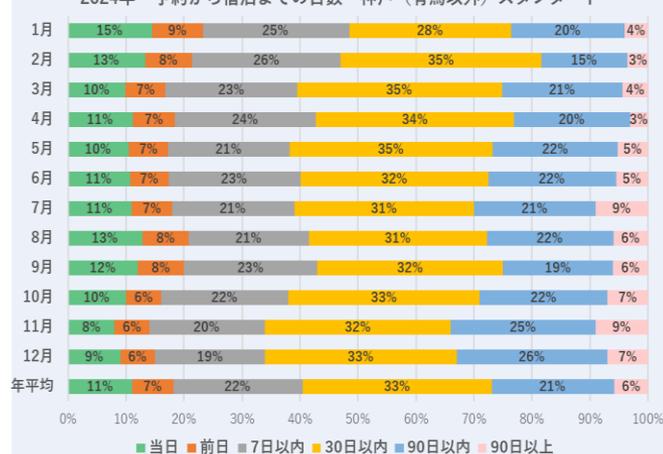
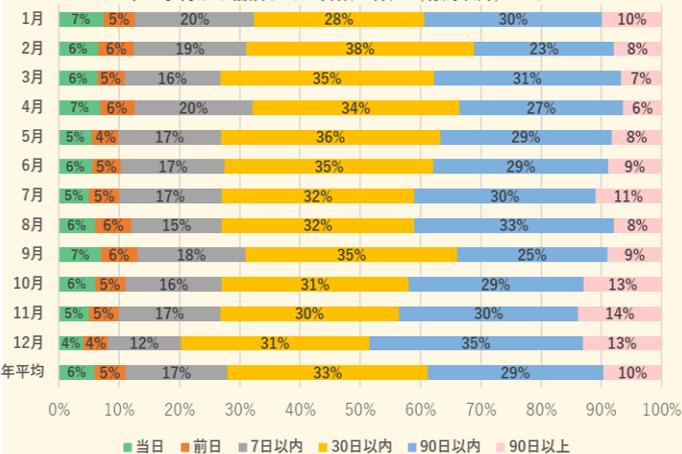
スタンダード

【市街地（有馬温泉除く）】

2024年 予約から宿泊までの日数 神戸（有馬以外）ハイクラス

2024年 予約から宿泊までの日数 神戸（有馬以外）スタンダード

- 神戸ハイクラスのリードタイムは、1週間以内、1か月以内、3か月以内が3割ずつとなっている。
- スタンダードでは、当日・前日の比率も高く、1か月以内の予約が7~8割を占めているため、直前割等のプランへの人気伺える。

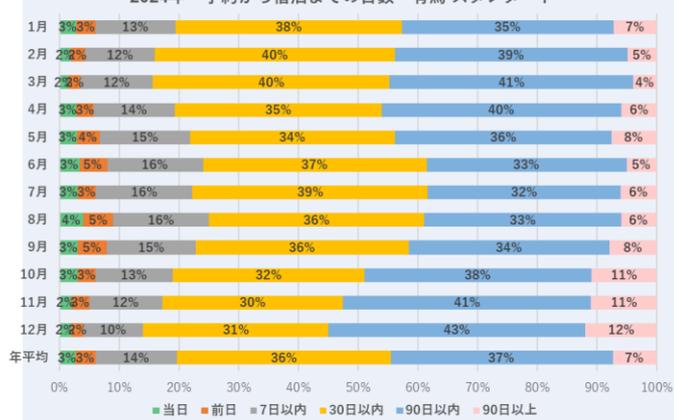
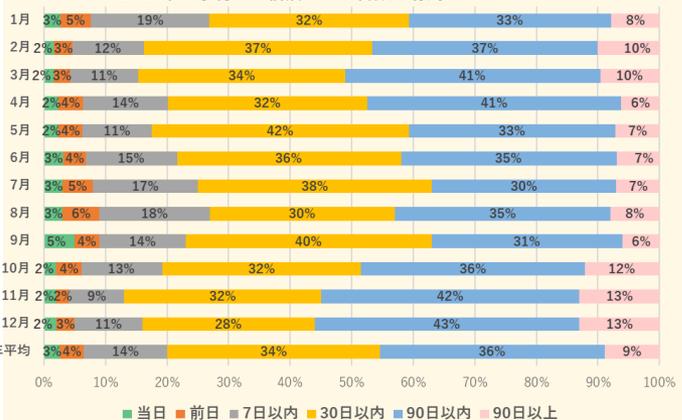


【有馬温泉】

2024年 予約から宿泊までの日数 有馬 ハイクラス

2024年 予約から宿泊までの日数 有馬 スタンダード

- 全体的に2023年から延伸傾向であったリードタイムは、一定安定してきており、2019年とほぼ同水準まで戻っている。
- 桜シーズンの3月、紅葉シーズンの11月~12月には、1か月以上前に予約を取る方が全体の50%を超えることから、より早期の宿泊プラン造成等が有効と推察される。

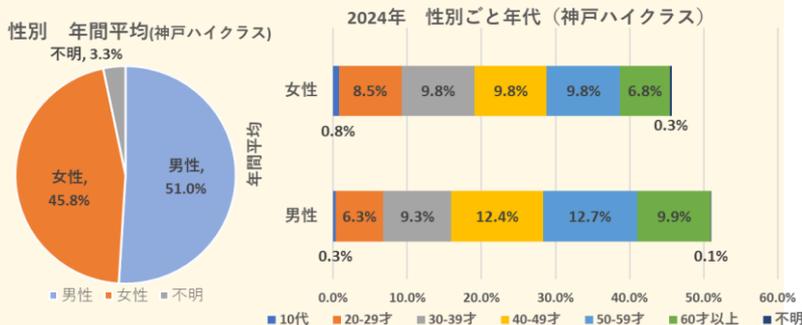


コロナ禍から回復し、リードタイムは安定している。

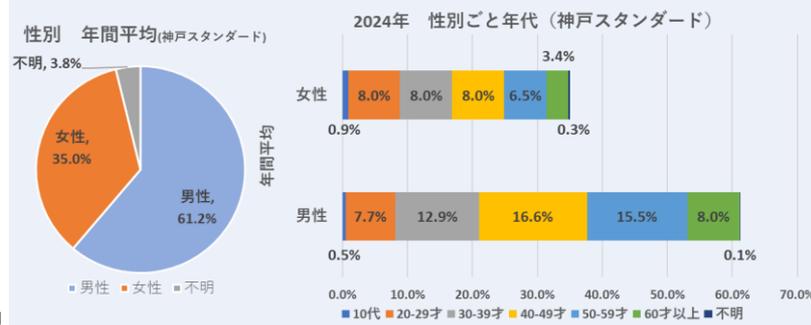
・ 予約者属性：市街地（有馬温泉除く）

ハイクラス

【性別・年代】



スタンダード



【グループサイズ】

グループサイズ	1人	2人	グループ (3人以上)	ファミリー	女性のみの グループ
1-3月	24.3%	47.3%	12.9%	15.6%	18.3%
4-6月	26.4%	48.1%	11.0%	14.5%	18.7%
7-9月	23.0%	46.2%	12.0%	18.8%	18.4%
10-12月	26.3%	50.4%	10.1%	13.3%	20.2%
年間平均	25.0%	48.0%	11.5%	15.5%	18.9%

グループサイズ	1人	2人	グループ (3人以上)	ファミリー	女性のみの グループ
1-3月	59.1%	28.9%	5.9%	6.1%	20.3%
4-6月	62.7%	27.2%	4.8%	5.3%	21.3%
7-9月	57.0%	28.7%	5.8%	8.5%	21.0%
10-12月	61.3%	27.8%	5.2%	5.6%	21.2%
年間平均	60.0%	28.1%	5.4%	6.4%	20.9%

【居住地】

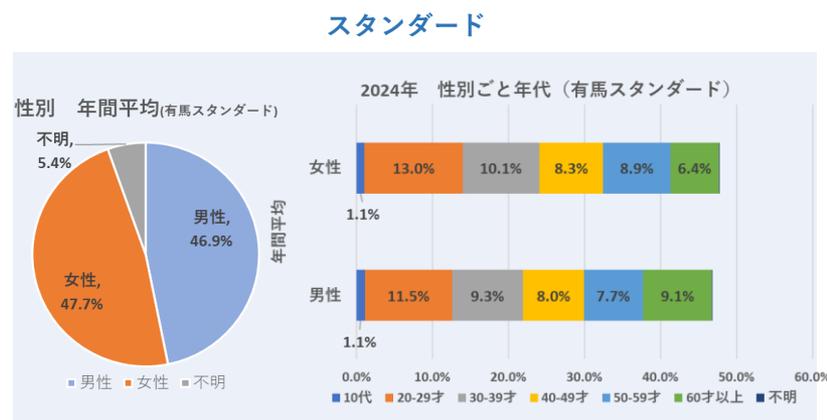
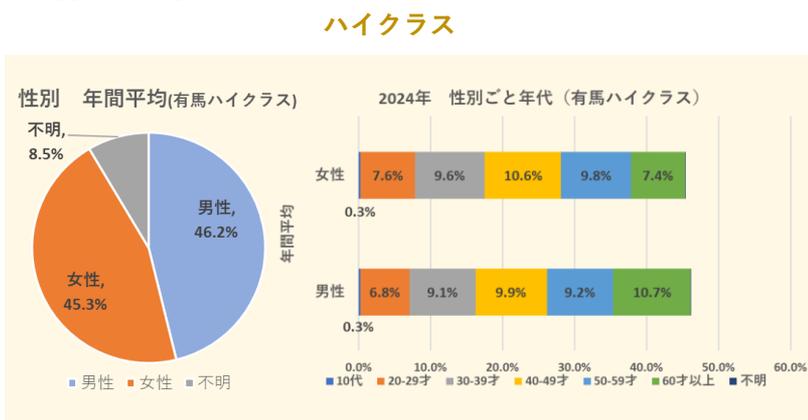
順位	1-3月平均		4-6月平均		7-9月平均		10-12月平均	
	居住地	比率	居住地	比率	居住地	比率	居住地	比率
1位	兵庫県	15.8%	兵庫県	14.4%	兵庫県	14.0%	兵庫県	13.5%
2位	大阪府	11.5%	大阪府	11.4%	大阪府	12.2%	大阪府	10.3%
3位	東京都	9.7%	東京都	10.3%	東京都	10.2%	東京都	10.2%
4位	愛知県	7.0%	愛知県	6.8%	愛知県	6.8%	愛知県	6.7%
5位	その他+不明	4.9%	神奈川県	4.6%	神奈川県	4.3%	神奈川県	4.8%

順位	1-3月平均		4-6月平均		7-9月平均		10-12月平均	
	居住地	比率	居住地	比率	居住地	比率	居住地	比率
1位	兵庫県	14.7%	東京都	14.7%	東京都	13.7%	東京都	14.8%
2位	東京都	13.6%	兵庫県	13.0%	兵庫県	12.6%	兵庫県	11.5%
3位	大阪府	7.8%	大阪府	7.4%	大阪府	7.5%	神奈川県	7.3%
4位	神奈川県	6.9%	神奈川県	7.0%	神奈川県	6.5%	大阪府	6.9%
5位	愛知県	5.9%	愛知県	5.8%	愛知県	5.9%	愛知県	5.7%

有馬以外の神戸市内においては、国内OTAが得意とする平日のビジネス客の傾向が強く出た形となった。特にスタンダードにおいては、予約者の6割が男性、中でも40～50歳代の年代が最も多かった。またスタンダードではグループサイズも1人が最も多くなった。一方ハイクラスでは、男女比がほぼ半数ずつとなり、年代もスタンダードと比較すると均等になる。グループサイズは2名、居住地は兵庫県内・大阪府が最も多くなった。

・ 予約者属性：有馬温泉

【性別・年代】



【グループサイズ】

グループサイズ	1人	2人	グループ (3人以上)	ファミリー	女性のみグループ
1-3月	3.4%	57.8%	25.1%	13.8%	14.3%
4-6月	4.0%	59.5%	25.5%	11.0%	14.3%
7-9月	3.8%	54.1%	22.7%	19.3%	11.2%
10-12月	3.8%	62.1%	24.1%	9.9%	15.5%
年間平均	3.8%	58.4%	24.3%	13.5%	13.8%

グループサイズ	1人	2人	グループ (3人以上)	ファミリー	女性のみグループ
1-3月平均	7.2%	56.9%	22.6%	13.3%	19.6%
4-6月平均	11.1%	56.3%	18.4%	14.2%	17.9%
7-9月平均	10.1%	50.4%	19.6%	19.9%	15.1%
10-12月平均	10.1%	56.8%	21.1%	12.0%	18.6%
年間平均	9.6%	55.1%	20.4%	14.9%	17.8%

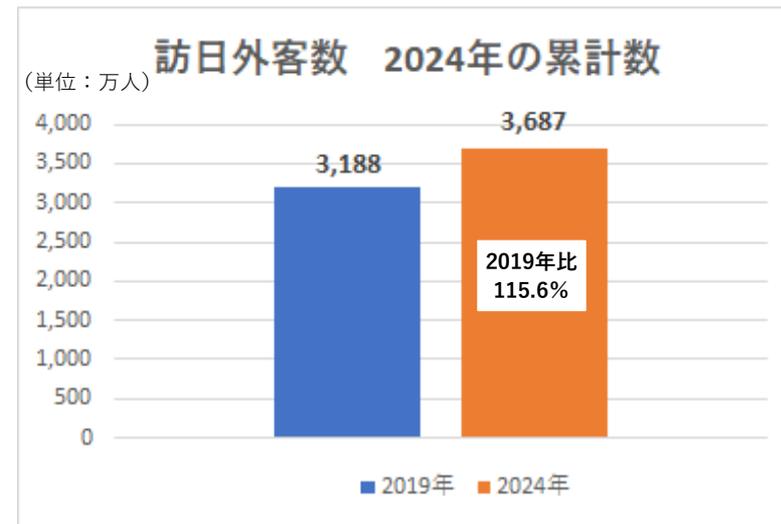
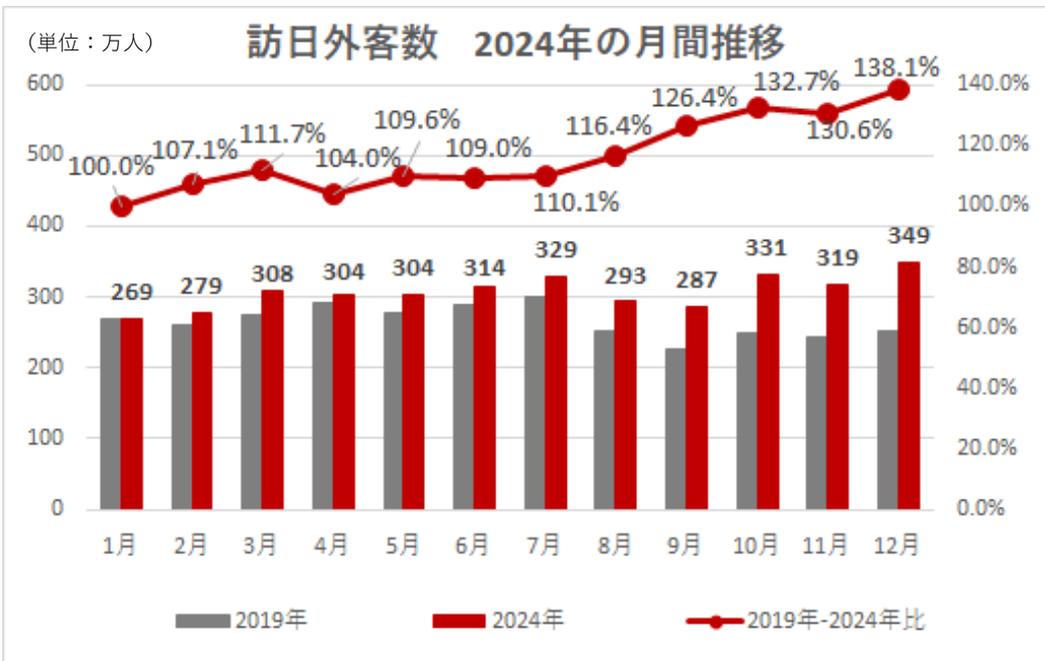
【居住地】

順位	1-3月平均		4-6月平均		7-9月平均		10-12月平均	
	居住地	比率	居住地	比率	居住地	比率	居住地	比率
1位	大阪府	22.2%	大阪府	21.2%	大阪府	21.7%	大阪府	19.7%
2位	兵庫県	13.1%	兵庫県	13.8%	兵庫県	13.1%	その他+不明	12.7%
3位	その他+不明	10.3%	その他+不明	11.7%	その他+不明	8.9%	兵庫県	11.7%
4位	東京都	7.4%	東京都	7.0%	愛知県	7.7%	愛知県	7.2%
5位	愛知県	7.1%	愛知県	6.8%	東京都	6.4%	東京都	6.8%

順位	1-3月平均		4-6月平均		7-9月平均		10-12月平均	
	居住地	比率	居住地	比率	居住地	比率	居住地	比率
1位	大阪府	20.8%	大阪府	18.6%	大阪府	18.6%	大阪府	17.2%
2位	兵庫県	11.7%	兵庫県	12.5%	兵庫県	12.7%	兵庫県	10.9%
3位	愛知県	8.9%	愛知県	8.4%	愛知県	8.3%	愛知県	9.2%
4位	東京都	6.3%	東京都	6.6%	東京都	6.9%	その他+不明	6.8%
5位	その他+不明	6.0%	その他+不明	6.1%	その他+不明	5.7%	東京都	6.7%

有馬エリアにおいては、神戸（有馬以外）エリアと異なり、クラス関係なく男女比はほぼ半数ずつであり、大阪府からの予約者が最も多くなった。クラスごとに見ていくと、スタンダードにおいては、男女ともにより若年層の割合が高くなり、ハイクラスに比べて女性のみグループの割合が高くなった。一方ハイクラスでは、30代以上の割合が均等に分布しており、かつ2人やグループでの予約が多く入る傾向が見られた。

3. 全国インバウンド情報



出典：日本政府観光局（JNTO）1/15プレスリリース「訪日外客数（2024年12月推計値）」
https://www.jnto.go.jp/statistics/data/files/20250115_1615-1.pdf

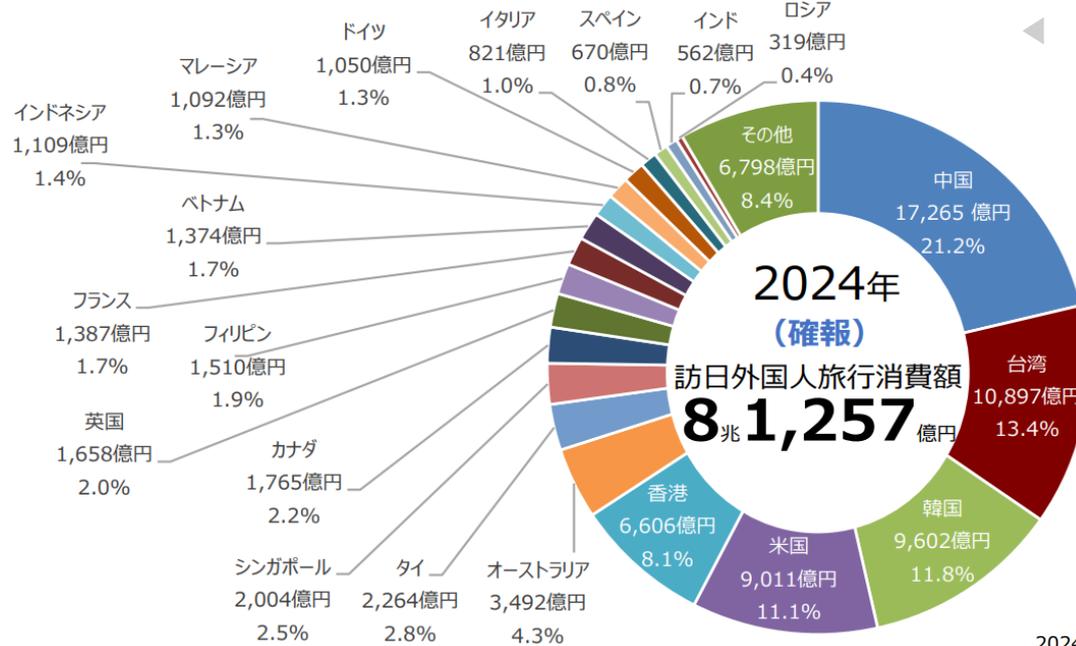
2024年計3600万人を突破 コロナ前の15.6%増、年間過去最高を記録

- ・2024年合計36,869,900人（速報値：2019年比115.6%）となり完全復活を遂げた。
- ・過去最高であった2019年の31,882,049人を約500万人上回り、年間過去最高を更新。（23市場のうち計20市場が年間の累計で過去最高を記録）
- ・ピークシーズンを中心に各市場が単月での過去最高を更新し、東アジアのみならず東南アジア、欧米豪においても実数を増やしたことが、年間過去最高の更新に繋がった。

国・地域	2024年総数		2019年比 (%)	2019年 1月～12月
	2024年 1月～12月	順位		
韓国	8,817,800	1位	157.9%	5,584,597
中国	6,981,200	2位	72.8%	9,594,394
台湾	6,044,400	3位	123.6%	4,890,602
米国	2,724,600	4位	158.1%	1,723,861
香港	2,683,500	5位	117.1%	2,290,792
タイ	1,148,900	6位	87.1%	1,318,977
豪州	920,200	7位	148.0%	621,771
フィリピン	818,700	8位	133.5%	613,114
シンガポール	691,100	9位	140.4%	492,252
ベトナム	621,100	10位	125.5%	495,051

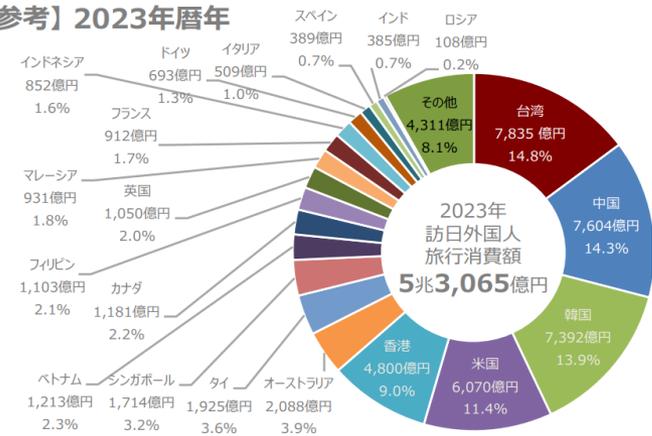
オレンジ…東アジア、黄色…東南アジア、欧米豪…緑

【図表1】国籍・地域別にみる訪日外国人旅行消費額と構成比

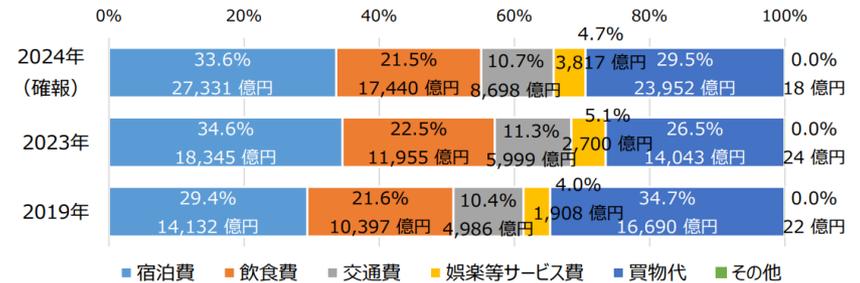


国籍別の動向として、中国市場の回復が感じられつつも、各市場のシェアがある程度均一になった。物価高騰の影響か、欧米豪の順位が若干UP。

【参考】2023年暦年



【図表2】訪日外国人旅行消費額の費目別構成比



2023年以降、ホテル単価の上昇から、2019年と比較して宿泊費の割合が増加している。また、前年より「買物代」の割合が増加。中国からの旅客者が増えた影響と思われる。一方で「買物代」は2019年の構成比に戻っていない。

出典：観光庁「【訪日外国人消費動向調査】2024年暦年調査結果（確報）の概要」
<https://www.mlit.go.jp/kankocho/content/001856155.pdf>

2024年計 8.1兆円と過去最高。2019年比169%、前年比153%となった。

- ・2024年計 8兆1,257億円（2019年比168.8%、前年比153.1%）と過去最高を記録。前年より約2.8兆円、2019年（コロナ前）を約3.3兆円上回る結果となった。
- ・消費額増加の要因としては、円安や宿泊日数の増加などだけでなく、物価の上昇なども起因していると見られており、真に稼げる地域が増えたか、引き続き注視が必要。
- ・政府目標である2030年「15兆円」の達成にはまだ道半ばであり、更なる消費額の拡大が求められる。

【図表6】国籍・地域別にみる一般客1人当たり費目別旅行支出（観光・レジャー目的）

2024年暦年

（確報）

（円/人）

（泊）

※概算

国籍・地域	訪日外国人1人当たり旅行支出【観光・レジャー目的】										平均泊数 注		1泊あたり （総額÷ 平均泊数）
	総額	前年比	2019年比	宿泊費	飲食費	交通費	娯楽等 サービス費	買物代	その他	前年差	2019年差		
												前年差	
全国籍・地域	223,431	+9.5%	+43.9%	74,887	47,779	24,528	9,918	66,270	49	6.9	-0.1泊	+0.7泊	32,380
韓国	103,752	+2.6%	+51.2%	32,142	28,655	8,540	5,647	28,759	10	3.6	-0.1泊	+0.3泊	28,821
台湾	184,077	+2.0%	+61.5%	52,941	38,560	18,118	7,650	66,778	30	5.4	-0.4泊	+0.3泊	34,089
香港	245,480	+9.7%	+59.5%	73,073	52,960	22,610	7,709	88,762	366	6.2	-0.4泊	+0.6泊	39,593
中国	268,691	-5.8%	+27.0%	71,504	46,971	22,065	9,789	118,351	12	6.6	-0.8泊	+0.8泊	40,711
タイ	202,258	+5.0%	+62.9%	61,951	45,665	23,251	7,157	64,117	117	6.1	-0.5泊	+0.4泊	33,157
シンガポール	291,287	-2.7%	+53.4%	107,705	65,971	30,170	9,355	78,070	15	8.4	-0.7泊	+0.4泊	34,678
マレーシア	220,154	-4.6%	+65.9%	76,199	45,659	27,861	11,585	58,831	18	7.6	-0.0泊	+0.6泊	28,967
インドネシア	218,049	+2.2%	+57.0%	74,790	41,470	32,506	9,820	59,398	65	8.0	+0.0泊	+0.4泊	27,257
フィリピン	205,547	+4.9%	+74.2%	65,273	41,303	20,637	10,656	67,679	0	7.6	+0.1泊	-1.0泊	27,046
ベトナム	186,950	-8.9%	+29.0%	58,569	36,360	21,929	9,541	60,551	0	6.6	+0.6泊	+0.0泊	28,326
インド	265,689	-13.9%	+49.1%	108,939	48,312	45,837	12,608	49,963	30	9.7	-0.2泊	-1.0泊	27,391
英国	395,606	+6.1%	+56.9%	174,734	84,739	58,544	21,984	55,559	46	12.6	-1.1泊	+1.1泊	31,397
ドイツ	365,886	+10.6%	+53.8%	164,059	83,272	56,145	13,208	49,200	1	15.5	+0.2泊	+1.5泊	23,604
フランス	369,835	+7.5%	+44.1%	154,894	77,923	58,993	15,640	62,353	31	15.1	-1.2泊	+0.6泊	24,492
イタリア	372,481	+11.3%	+66.2%	153,966	88,583	72,160	14,161	43,611	0	13.0	+0.5泊	-0.6泊	28,653
スペイン	364,948	+5.3%	+58.8%	141,939	82,087	71,327	16,933	52,662	0	13.6	-1.1泊	+0.9泊	26,835
ロシア	306,427	+20.9%	+76.0%	120,000	71,247	41,083	9,415	64,683	0	10.9	-6.2泊	+0.9泊	28,112
米国	348,895	+7.5%	+71.9%	146,985	75,180	45,846	18,292	62,588	4	10.6	-0.4泊	+1.2泊	32,915
カナダ	334,927	+11.8%	+79.1%	136,433	74,355	47,871	15,892	60,374	2	12.4	+0.1泊	+1.3泊	27,011
オーストラリア	399,162	+11.0%	+53.3%	172,129	84,749	52,578	31,289	58,369	48	13.7	-0.4泊	+0.8泊	29,137
その他	372,753	+8.7%	+66.5%	152,132	81,317	57,083	15,854	66,352	13	13.9	+0.0泊	+0.4泊	26,818

出典：観光庁「【訪日外国人消費動向調査】2024年暦年調査結果（確報）の概要」
<https://www.mlit.go.jp/kankocho/content/001856155.pdf>

※「訪日外国人」には、観光・レジャー目的に加え、ビジネス目的や親族・知人訪問目的などで日本を訪れた外国人が含まれる。日本に居住している外国人は含まれない。

- 消費動向調査（全目的）の1人あたり旅行支出は22万7千円（2019年比143.1%、前年比106.6%）と推計される。
- 「観光・レジャー目的のみ」の集計では、1人あたり旅行支出は平均22万3千円（2019年比143.9%、前年比109.5%）。
- 1位オーストラリア（39.9万円）、2位英国（39.5万円）、3位イタリア（37.2万円）
- 1人1泊あたりの支出が最も多いのは、中国（40,711円）、香港（39,593円）
- ただし、物価高騰等の影響があるため、今後も消費額単価の達成状況を注視する必要がある。
- 政府目標の2030年 訪日外国人旅行者数6000万人、消費額15兆円を達成するための1人あたり単価は25万円。

・ 1泊あたりの平均消費単価

【地域別・費目別】

観光・レジャー	1泊あたり合計 (平均)	1泊あたり平均					
		宿泊費	飲食費	交通費	娯楽等サービス費	買物代	その他
東アジア	35,804円	10,338円 (29%)	7,690円 (21%)	3,179円 (9%)	1,428円 (4%)	13,151円 (37%)	18円 (0%)
韓国	28,821円	8,928円 (31%)	7,960円 (28%)	2,372円 (8%)	1,569円 (5%)	7,989円 (28%)	3円 (0%)
台湾	34,089円	9,804円 (29%)	7,141円 (21%)	3,355円 (10%)	1,417円 (4%)	12,366円 (36%)	6円 (0%)
香港	39,593円	11,786円 (30%)	8,542円 (22%)	3,647円 (9%)	1,243円 (3%)	14,316円 (36%)	59円 (0%)
中国	40,711円	10,834円 (27%)	7,117円 (17%)	3,343円 (8%)	1,483円 (4%)	17,932円 (44%)	2円 (0%)
東南アジア+インド	29,546円	10,150円 (34%)	6,065円 (21%)	3,699円 (13%)	1,312円 (4%)	8,314円 (28%)	5円 (0%)
ヨーロッパ	27,182円	11,333円 (42%)	6,107円 (22%)	4,457円 (16%)	1,139円 (4%)	4,146円 (15%)	1円 (0%)
北米・豪	29,688円	12,478円 (42%)	6,425円 (22%)	4,008円 (14%)	1,764円 (6%)	5,012円 (17%)	1円 (0%)

出典：観光庁「【訪日外国人消費動向調査】2024年暦年調査結果（確報）の概要」より集計・分析
<https://www.mlit.go.jp/kankocho/content/001856155.pdf>

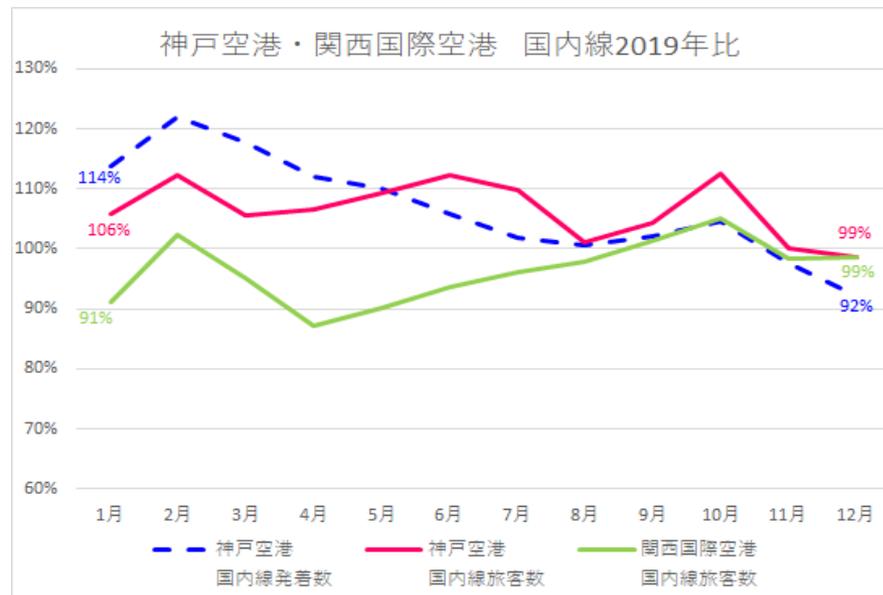
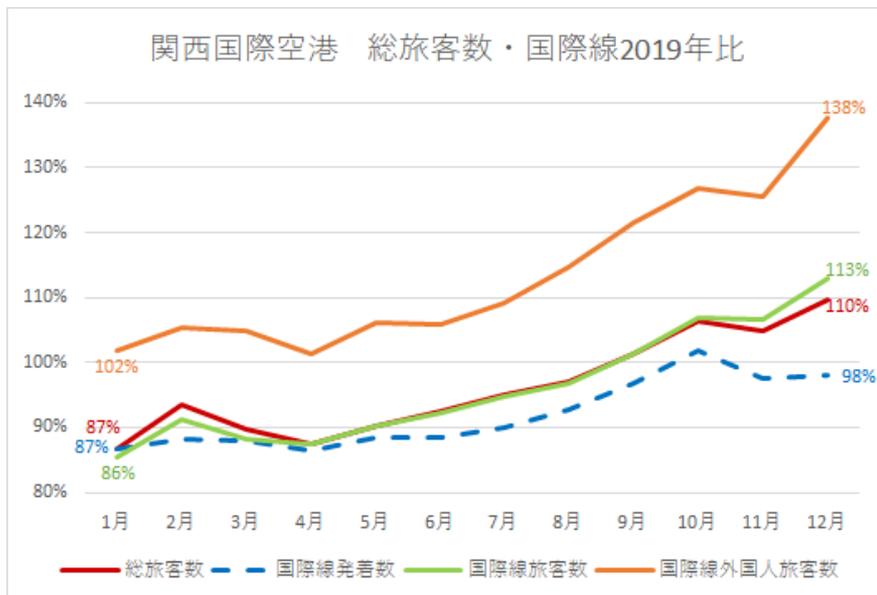
- ・「観光・レジャーのみ」の1人1泊あたり（項目別）を見ると、市場ごとの特徴が伺える。
- ・東アジアは宿泊費・交通費よりも全体的に飲食費、買物代の消費が多いことが分かる。
東アジアの中でも香港は、宿泊費・飲食費・交通費・その他で4か国中トップ。
- ・韓国は娯楽等、中国は買物代でトップとなった。特に中国の買物代は、1泊あたり消費額の約4割を占めている。
- ・一方、ヨーロッパでは交通費、北米・豪では宿泊費・娯楽等への消費が多く見られた。

4. エアライン・クルーズ船情報

神戸空港における総旅客数 計358万人 暦年として過去最高（2019年比106%）

- ・国際線全体の発着回数は145,106回で前年比136%、2019年比92%と、回復が一層進んだ結果となりました。
- ・国際線旅客数のうち、外国人旅客数は1,892万人で暦年として過去最高を記録するなど、国際線旅客数全体の回復を強くけん引した結果、国際線旅客数全体として前年比146%、2019年比96%と回復が進んだ。
- ・関西国際空港の国内線旅客数は前年比97%、2019年比96%で着地。
- ・神戸空港における旅客数は358万人となり、暦年として過去最高を記録(前年比104%)。

	関西国際空港				神戸空港		
	総旅客数(人)	国際線発着数(回)	国際線旅客数(人)	うち外国人旅客数(人)	国内線旅客数(人)	国内線発着数(回)	国内線旅客数(人)
2024年総計	30,649,747	145,106	23,918,876	18,923,373	6,730,871	33,300	3,576,118
2019年(比)	96%	92%	96%	113%	96%	106%	106%



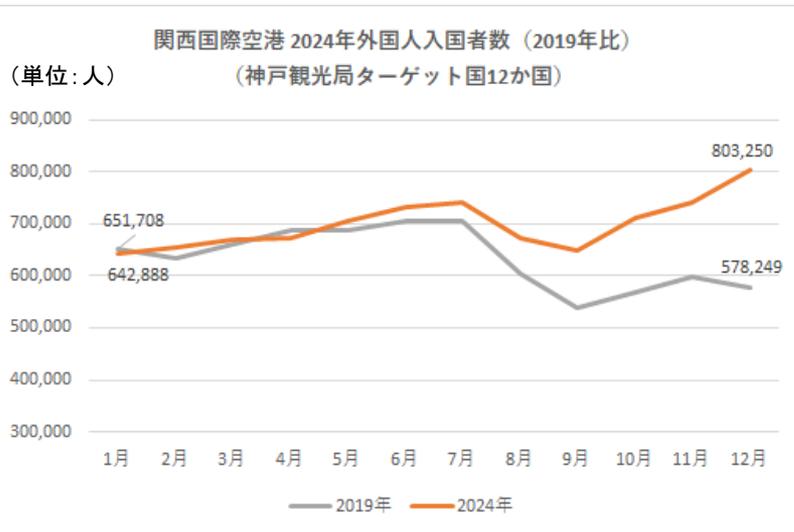
出典：関西エアポートニュースリリースより作成

※国内線旅客数は発着者数計、国際線旅客数は出入国者数計となります。

神戸観光局がターゲットとする主な国からの入国者数をレポートしている

2024年 (人数)	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
英国	2,570	3,051	7,571	5,565	5,222	4,238	4,786	4,658	4,872	7,334	5,351	4,395	59,613
フランス	2,019	3,105	6,650	10,801	9,190	4,971	7,655	6,319	6,254	10,692	5,847	3,250	76,753
豪州	14,451	7,883	12,975	13,744	11,348	10,868	7,848	7,226	16,119	15,918	15,009	21,901	155,290
米国	12,226	11,191	28,915	21,835	25,166	35,498	28,727	17,799	18,812	30,442	28,752	24,955	284,318
中国	153,048	162,589	159,616	185,448	193,030	230,239	262,350	266,116	235,873	197,946	212,733	222,559	2,481,547
台湾	108,065	110,021	110,630	102,727	114,491	128,800	120,259	121,122	104,935	108,216	110,207	106,641	1,346,114
香港	44,383	54,751	66,144	47,289	61,059	71,721	80,793	71,410	41,524	51,636	59,084	71,538	721,332
韓国	253,074	239,717	205,604	199,347	217,128	198,061	195,805	153,122	178,041	210,722	217,481	238,913	2,507,015
タイ	24,719	25,797	34,610	40,790	29,473	15,614	14,179	8,442	13,092	35,408	32,738	38,083	312,945
マレーシア	8,663	18,689	13,118	15,518	13,024	6,687	5,112	5,006	13,770	18,064	19,823	18,793	156,267
インドネシア	10,506	8,201	7,252	16,260	8,502	9,942	6,449	4,838	6,674	8,081	9,057	15,780	111,542
シンガポール	9,164	9,177	15,517	12,101	17,396	15,632	6,152	5,679	10,240	18,016	26,285	36,442	181,801
合計	642,888	654,172	668,602	671,425	705,029	732,271	740,115	671,737	650,206	712,475	742,367	803,250	8,394,537

オレンジ…月間入国者数1位の月（国別）



出典：総務省「出入国管理統計」より抜粋

神戸観光局のターゲット国12か国合計の入国者数は、1月～4月までは2019年と同数程度で推移していたが、5月以降徐々に2019年に差をつける形で増加していき、12月には803,250人となり、1～12月の合計が2019年比110.2%となった。
2024年ターゲット12か国合計：8,394,537人（2019年：7,614,370人）

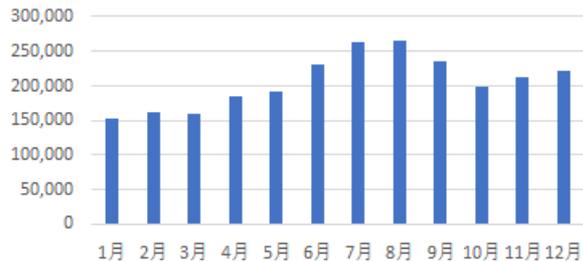
国・地域	2024年総数		2019年比 (%)
	2024年 1月～12月	順位	
韓国	2,507,015	1位	166%
中国	2,481,547	2位	75%
台湾	1,346,114	3位	123%
香港	721,332	4位	119%
タイ	312,945	5位	101%

中国はコロナ前の数値には戻っていないが、月ごとに2019年の入国者数に近づいているため、完全回復は近いと推測。
その他の国は2019年比100%を超えており、完全復活を遂げた。

関西国際空港 国別 月次入国者数推移

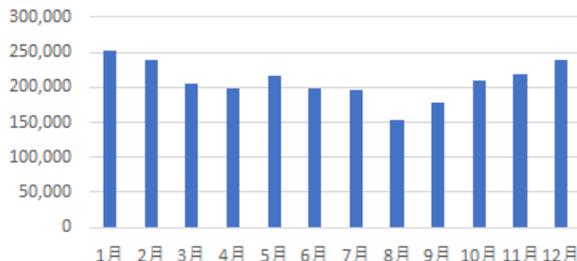
⇒国や地域で訪日旅行者の入国時期に特徴

【中国】



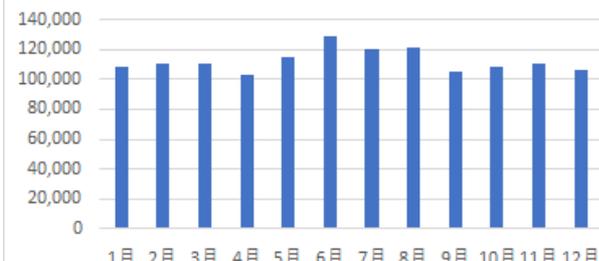
コロナ前の傾向では、最も増加するのは学校休暇のある7・8月。1・2月の春節や、9・10月の国慶節といった大型連休を利用して日本を訪れるケースもある。2024年は7・8月がピークなので2025年もその傾向は続くと推測。

【韓国】



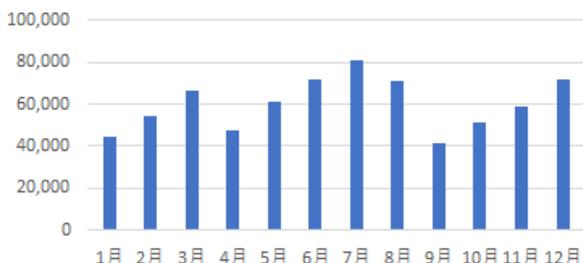
コロナ前の傾向では、ハイシーズンは12月から2月。この時期は学校の長期休暇があり、家族旅行や友人同士での訪日が多い。2024年は1・2・12月の訪日外客数が多いため、今年もコロナ前のトレンドと同様となると推測。

【台湾】



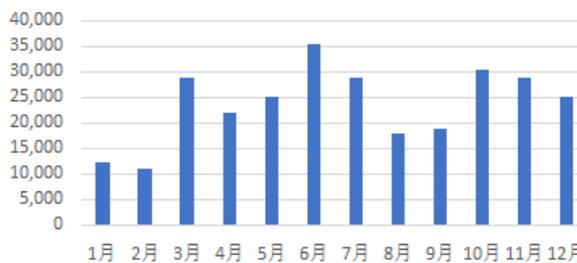
コロナ前の傾向では、ハイシーズンは4月から7月。訪日観光客の半数が家族・親族で訪れている。2024年は6月の訪日が一番多かった。2025年の訪日シーズンも学校休暇のある夏が予想されるが、年間を通して大きな変動は見られない。

【香港】



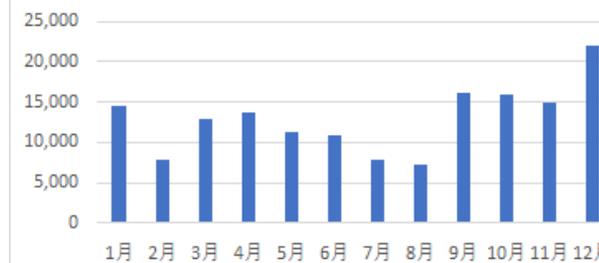
コロナ前の傾向では、ハイシーズンは7月と12月。特に7月は学校が夏季休暇に入るため、家族旅行に来る香港人が多い。2024年は7月が一番のピークだったが、その前後の6・8月の訪日も多かったため、2025年も夏のシーズンと12月の訪日が多くなると推測。

【米国】



コロナ前の傾向では、ハイシーズンは3月から7月までの春～夏。6月から8月の学校休暇に合わせての訪日旅行を楽しんでいた。2024年は6月が一番のピークとなっており、1・2月及び8・9月は大きく落ち込んだため、2025年もその傾向が出ると推測。

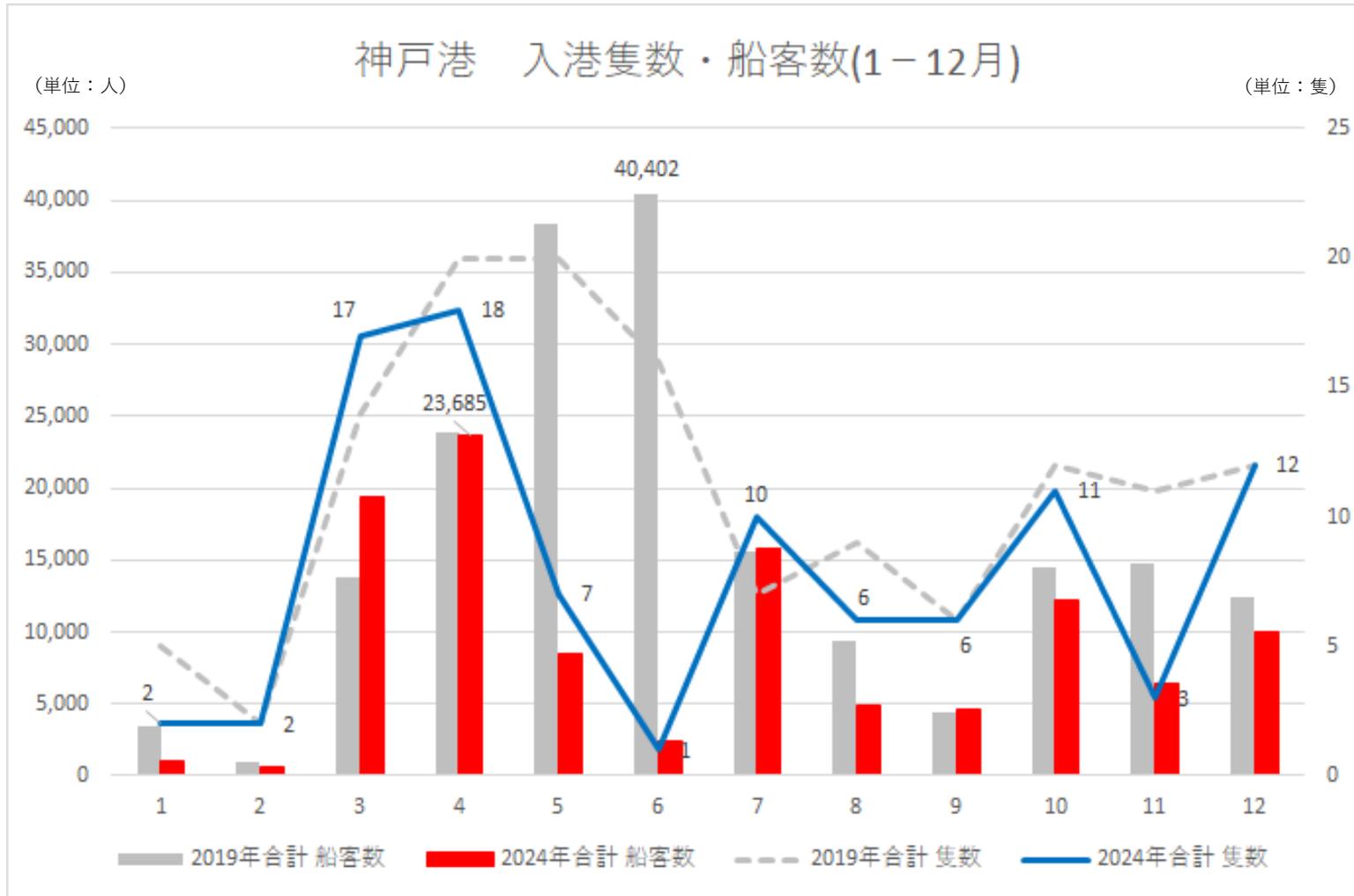
【豪州】



コロナ前の傾向では、ハイシーズンは12月から1月にかけての冬季であり、5月から8月にかけての夏季には訪問数が落ち込む傾向にあった。2024年は1・12月に加え、9月から11月にも訪日旅行者数が多いことから、2025年は秋にも観光客が増えることが推測される。

参考：総務省「出入国管理統計」より抜粋：「JNTO 訪日旅行データハンドブック 2023年」より抜粋

※コメントはコロナ前（主に2018・2019年）の各国の傾向を記載。その上で、2024年の関西国際空港国際線入国状況とを比較し、2025年の各国のシーズンを推測。

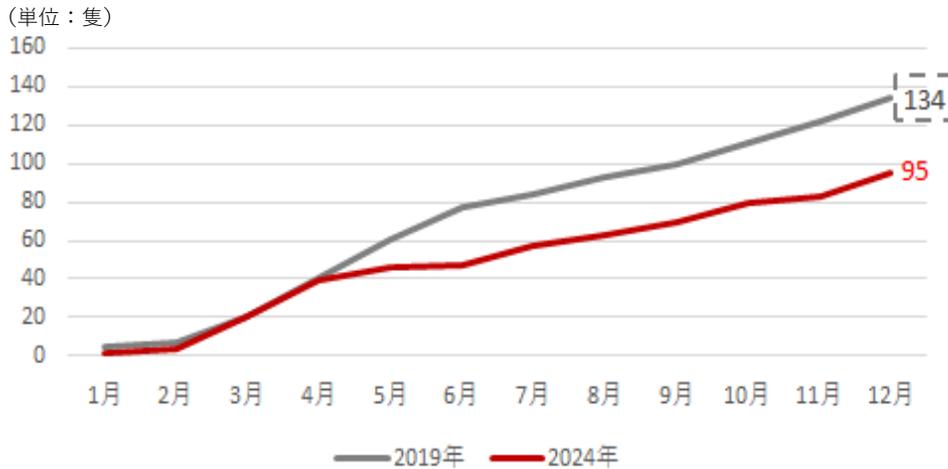


コロナ禍で停止していた国際クルーズが2023年3月に再開し、神戸港へも多数のクルーズ船が入港するようになったが、2024年の隻数・船客数は、ともに2019年の数値を下回っている。

隻数の推移をみると、1・2月が各2隻だったが、春の客船ラッシュの3月に17隻、4月には18隻が入港。その後少し減少するものの、秋以降では10月に11隻、12月に12隻が入港した。神戸港へ初入港した外国籍船も多く、また、超大型客船の寄港もあり、賑わいを見せた。

船客数(延べ人数)は、5・6月が2019年比では大きく下回っている一方で、4月は2019年とほぼ同数の23,685人、7月は2019年を上回る15,815人が寄港しており、時期によって増減が見られた。

【A】クルーズ船隻数 累積



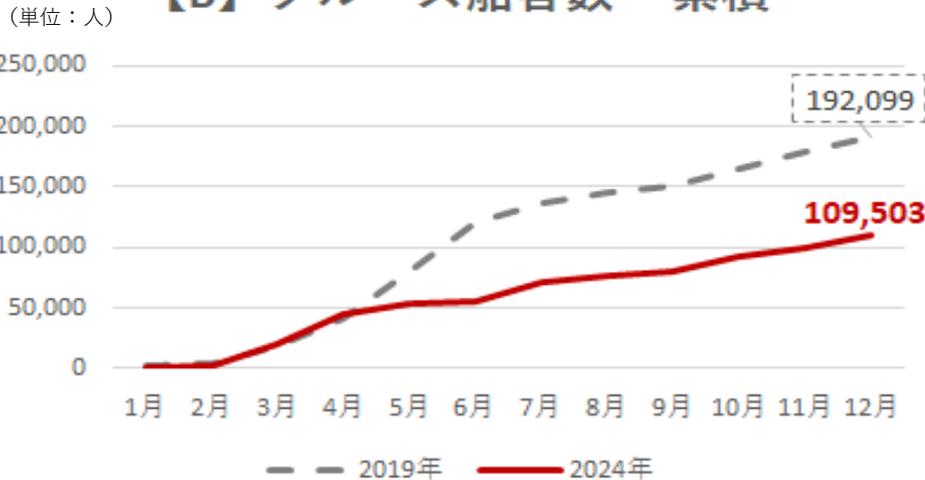
【A】クルーズ船隻数 累計

2024年と2019年の隻数の累計グラフを比較すると、2019年比71%と、コロナ前の水準には及ばない形となった。内訳では、日本船の隻数合計は2019年と比較して39%である一方で、外国籍船の数は2019年比105%で戻っている。

【B】クルーズ船客数 累計

船客数の累計を2024年と2019年で比較すると、総客数は10万9503名（2019年比57%）の回復に留まった。

【B】クルーズ船客数 累積



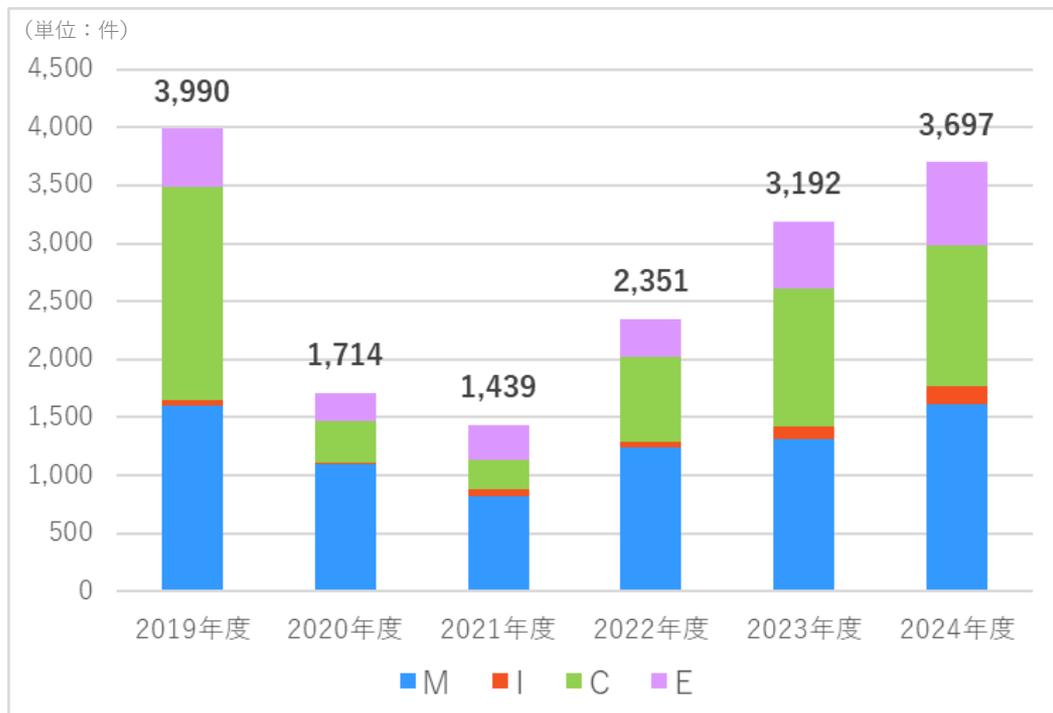
結果の背景として以下のようなことが考察される

- 2019年に41回入港した日本船「ばしふいっくびいなす」が、その後営業を廃止したことから、同船の減少分が入港隻数および船客数の累積に影響している。
- 外国籍船に限定すると、2019年比の入港隻数が微増した一方で、船客数は逆に62%へと減少した。要因として、中国発着をはじめとする、旅客定員の多い10万トン超の大型客船の割合が、2019年は外国籍船65隻のうち18隻(28%)を占めていたが、2024年には同68隻のうち5隻(7%)と減少。代わって2024年は旅客定員の少ない小型のラグジュアリー船の入港が多かったことが挙げられる。

5. MICE・観光施設・観光案内所 動向

～神戸観光局オリジナルデータ～

・神戸市内 MICE 開催総件数 年別推移



出典：2019年～2024年度：一般財団法人神戸観光局調べ
対象施設：市内MICE施設 28箇所（公共施設7か所、ホテル11箇所、その他10箇所）

主な大型学会開催実績（2024年度）

【2024年】

- 4月 第68回日本リウマチ学会総会・学術集会 7,000人
- 6月 日本麻酔科学会 第71回学術集会 11,600人
- 6月 第29回日本緩和医療学会学術大会
第37回日本サイコオンコロジー学会総会
合同学術大会 8,300人
- 7月 第30回日本心臓リハビリテーション学会学術集会 5,600人
- 10月 第32回日本消化器関連学会週間（JDDW 2024） 24,300人

【2025年】

- 3月 第22回日本臨床腫瘍学会学術集会 6,000人

※人数はオンライン参加者含む

M/I/C/E分類基準

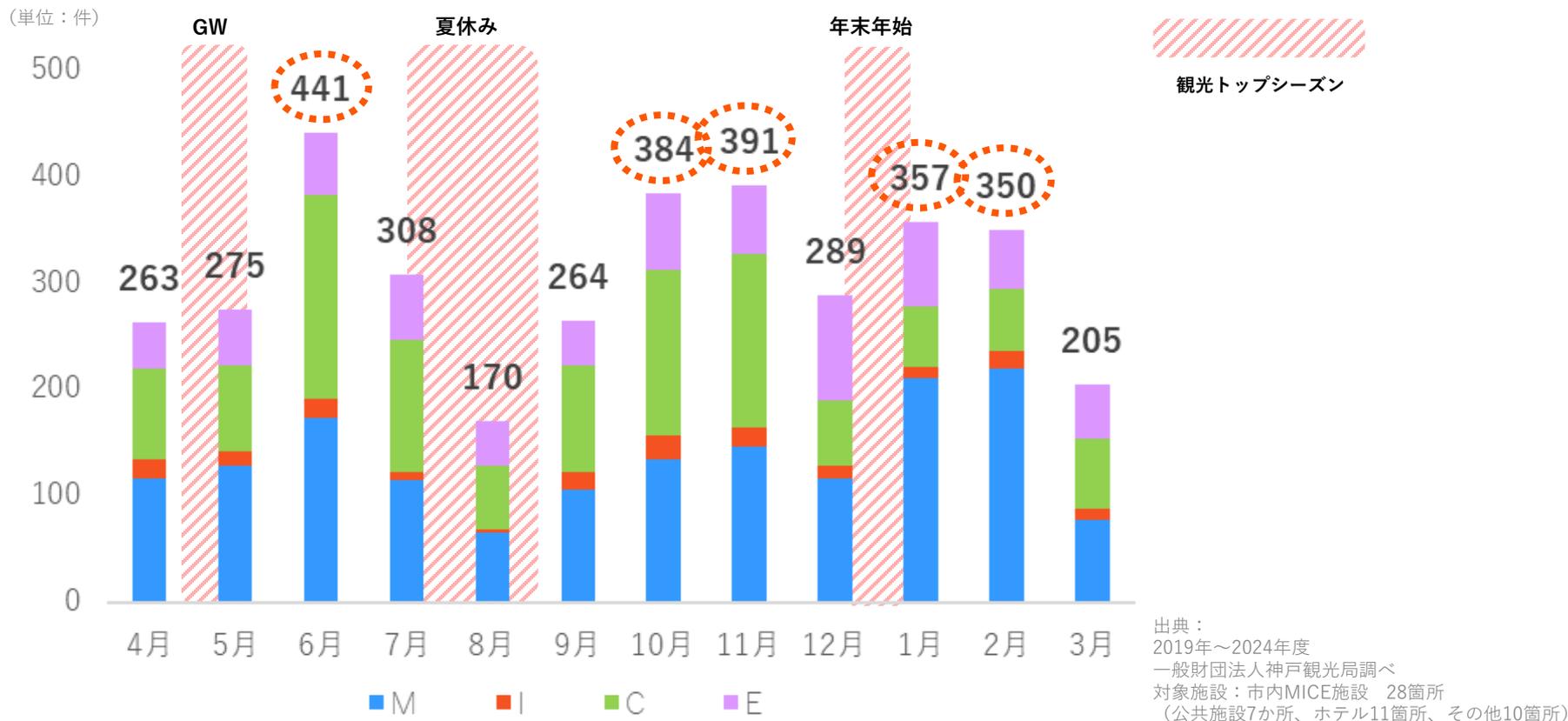
- M・・・企業・民間団体が主催する会議・研修等（50名以上）
 - I・・・企業が主催する報奨旅行
 - C・・・学協会等の非営利団体が主催する学会・会議等（50名以上）
 - E・・・展示会、イベント（50名以上）
- ※コンサート、入学式/入社式/卒業式/学位授与式、50名に満たない会合を除く

2024年度計 3,697件（2019年比 92.6%）

- ・2024年4月～2025年3月の1年間で、神戸市内におけるMICE開催件数は3,697件に達し、コロナ前比92.6%まで回復した。
- ・5,000人以上の大型会議も継続して開催されており、一度に多数の来訪者が神戸に集まることで、市内経済の活性化に大きく寄与している。
- ・コロナ禍を経た2024年度は、「現地参加」の動きが戻ってきており、神戸への誘客にも好影響を与えている。

・MICE開催時期の傾向

2024年度 市内MICE月別開催件数



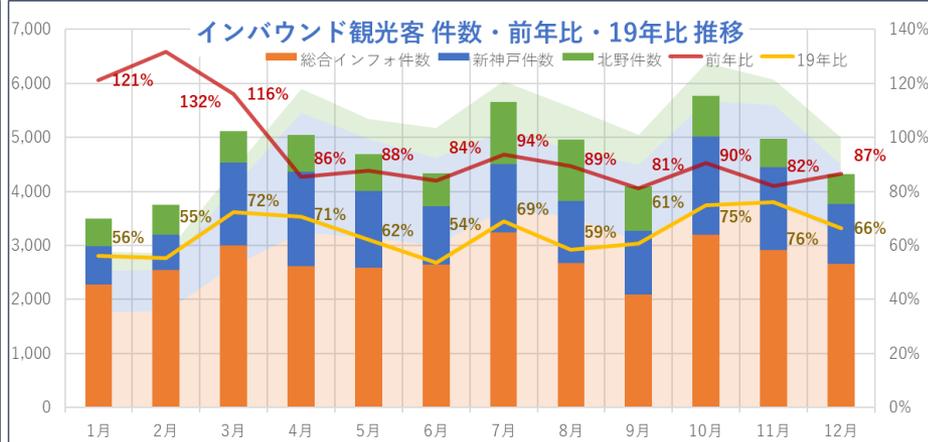
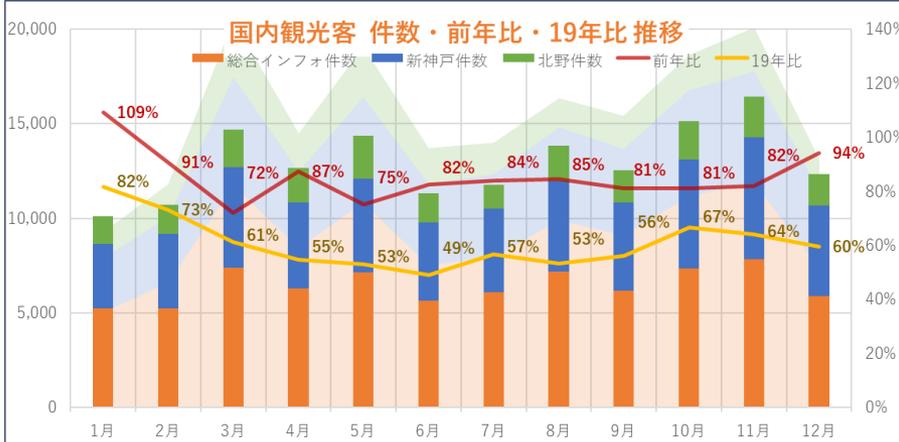
6月、10～11月、1～2月でのMICE開催が多く、観光需要の平準化に寄与。

2024年度の開催時期をみると、観光のトップシーズンを避けた時期に開催件数が多く（特に6月・10～11月・1～2月）、MICEによる宿泊需要の平準化や市内消費の拡大に寄与していることが改めて確認された。

観光案内所：案内件数 月別・場所別

三宮（総合インフォメーション）、新神戸、北野の3つの観光案内所における、国内およびインバウンド対応件数の月別推移。

	総合インフォメーション									新神戸案内所						北野案内所						合計														
	国内			インバウンド			合計			国内			インバウンド			合計			国内			インバウンド			合計											
	件数	前年比	19年比	件数	前年比	19年比	件数	前年比	19年比	件数	前年比	19年比	件数	前年比	19年比	件数	前年比	19年比	件数	前年比	19年比	件数	前年比	19年比	件数	前年比	19年比	件数	前年比	19年比						
1月	5,225	105%	72%	2,273	129%	60%	7,498	111%	68%	3,422	118%	89%	713	94%	59%	4,135	113%	82%	1,477	106%	111%	514	142%	42%	1,991	113%	78%	10,124	109%	82%	3,500	121%	56%	13,624	112%	73%
2月	5,250	79%	66%	2,543	143%	60%	7,793	93%	64%	3,941	115%	78%	660	86%	51%	4,601	110%	73%	1,518	87%	98%	553	183%	43%	2,071	101%	73%	10,709	91%	73%	3,756	132%	55%	14,465	99%	68%
3月	7,377	63%	50%	3,001	114%	61%	10,378	72%	53%	5,316	93%	74%	1,534	106%	145%	6,850	96%	83%	2,011	67%	97%	577	178%	55%	2,588	78%	83%	14,704	72%	61%	5,112	116%	72%	19,816	80%	64%
4月	6,293	75%	43%	2,613	80%	52%	8,906	76%	46%	4,555	113%	68%	1,749	79%	169%	6,304	101%	82%	1,801	89%	93%	676	154%	65%	2,477	100%	83%	12,649	87%	55%	5,038	86%	71%	17,687	87%	59%
5月	7,153	66%	44%	2,594	83%	51%	9,747	70%	45%	4,930	89%	58%	1,417	77%	115%	6,347	86%	66%	2,272	85%	102%	671	179%	54%	2,943	96%	85%	14,355	75%	53%	4,682	88%	62%	19,037	78%	55%
6月	5,652	75%	40%	2,651	88%	47%	8,303	79%	42%	4,148	96%	58%	1,079	67%	87%	5,227	88%	62%	1,511	79%	89%	610	109%	49%	2,121	86%	72%	11,311	82%	49%	4,340	84%	54%	15,651	83%	50%
7月	6,084	76%	47%	3,242	88%	60%	9,326	80%	51%	4,424	101%	71%	1,266	88%	91%	5,690	98%	75%	1,262	75%	75%	1,146	123%	82%	2,408	92%	78%	11,770	84%	57%	5,654	94%	69%	17,424	87%	60%
8月	7,172	72%	44%	2,675	76%	53%	9,847	73%	46%	4,786	97%	66%	1,145	92%	66%	5,931	96%	66%	1,872	122%	85%	1,144	145%	66%	3,016	130%	77%	13,830	85%	53%	4,964	89%	59%	18,794	86%	55%
9月	6,182	68%	44%	2,089	68%	45%	8,271	68%	44%	4,655	102%	74%	1,175	84%	110%	5,830	97%	79%	1,691	95%	92%	828	148%	78%	2,519	108%	87%	12,528	81%	56%	4,092	81%	61%	16,620	81%	57%
10月	7,341	66%	52%	3,199	85%	54%	10,540	71%	53%	5,785	103%	88%	1,820	95%	205%	7,605	101%	102%	2,000	107%	100%	751	106%	85%	2,751	106%	95%	15,126	81%	67%	5,770	90%	75%	20,896	83%	69%
11月	7,818	66%	49%	2,915	76%	57%	10,733	68%	51%	6,484	111%	84%	1,534	88%	217%	8,018	106%	95%	2,140	92%	107%	529	112%	75%	2,669	96%	99%	16,442	82%	64%	4,978	82%	76%	21,420	82%	66%
12月	5,901	80%	45%	2,664	84%	54%	8,565	81%	47%	4,780	116%	84%	1,107	84%	142%	5,887	109%	91%	1,675	99%	87%	555	112%	71%	2,230	102%	83%	12,356	94%	60%	4,326	87%	66%	16,682	92%	61%
合計	77,448	76%	48%	32,459	85%	54%	109,907	78%	50%	57,226	102%	73%	15,199	86%	112%	72,425	98%	79%	21,230	94%	94%	8,554	123%	63%	29,784	101%	83%	155,904	86%	59%	56,212	89%	65%	212,116	87%	61%



JR三ノ宮駅の改修工事の影響により、三宮総合インフォメーションの対応件数は前年比78%、19年比50%にとどまった。一方で、新神戸および北野は前年とほぼ同水準を維持。特に北野案内所ではインバウンド対応件数が前年比123%と大きく伸びており、韓国や中国からの観光客の増加が要因と考えられる。案内所の対応件数から伺える国内観光客の来訪ピークは10月から11月にかけてで、春休み・ゴールデンウィーク・年末年始といった行楽シーズンを上回る結果となった。また、インバウンド観光客のピークは10月で、中国の大型連休「国慶節」の影響があると見られる。また、全国的にインバウンドが最も多くなる7月も対応件数は多く、各国の夏休み・バカンスシーズンにあわせて神戸を訪れている傾向がうかがえる。

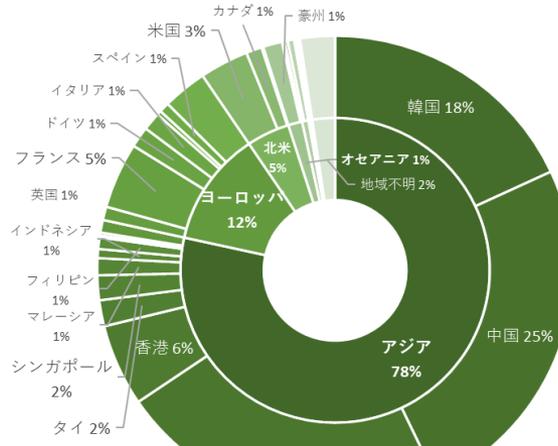
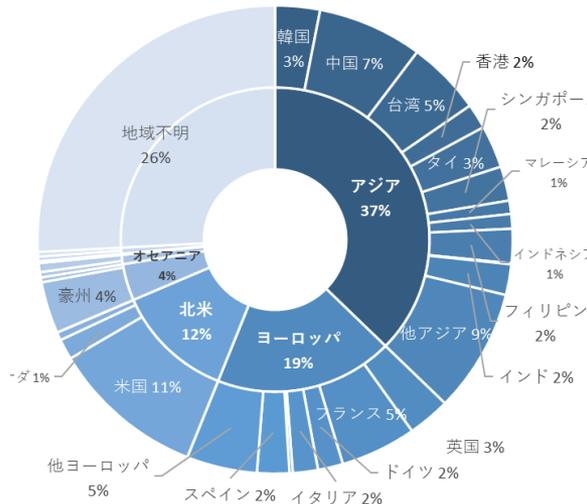
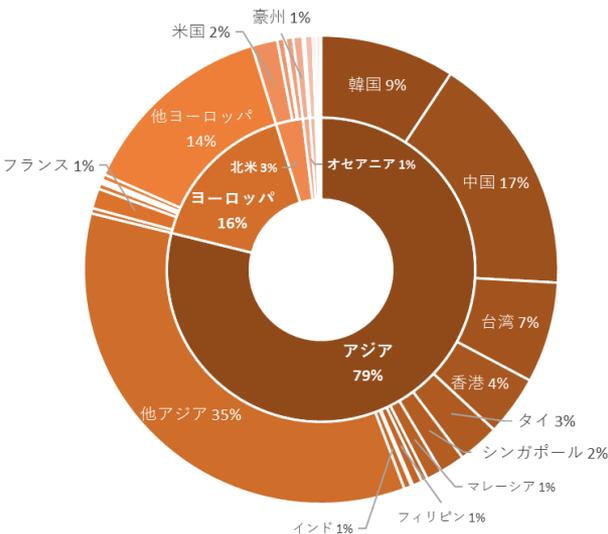
観光案内所：インバウンド対応件数・国籍別

三宮（総合インフォメーション）、新神戸、北野の3つの観光案内所を訪れたインバウンドの国別割合を分析。

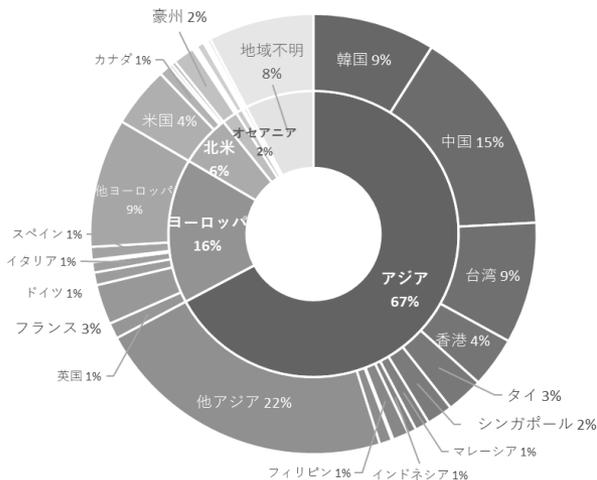
総合インフォメ（三宮）

新神戸案内所

北野案内所



3案内所全体

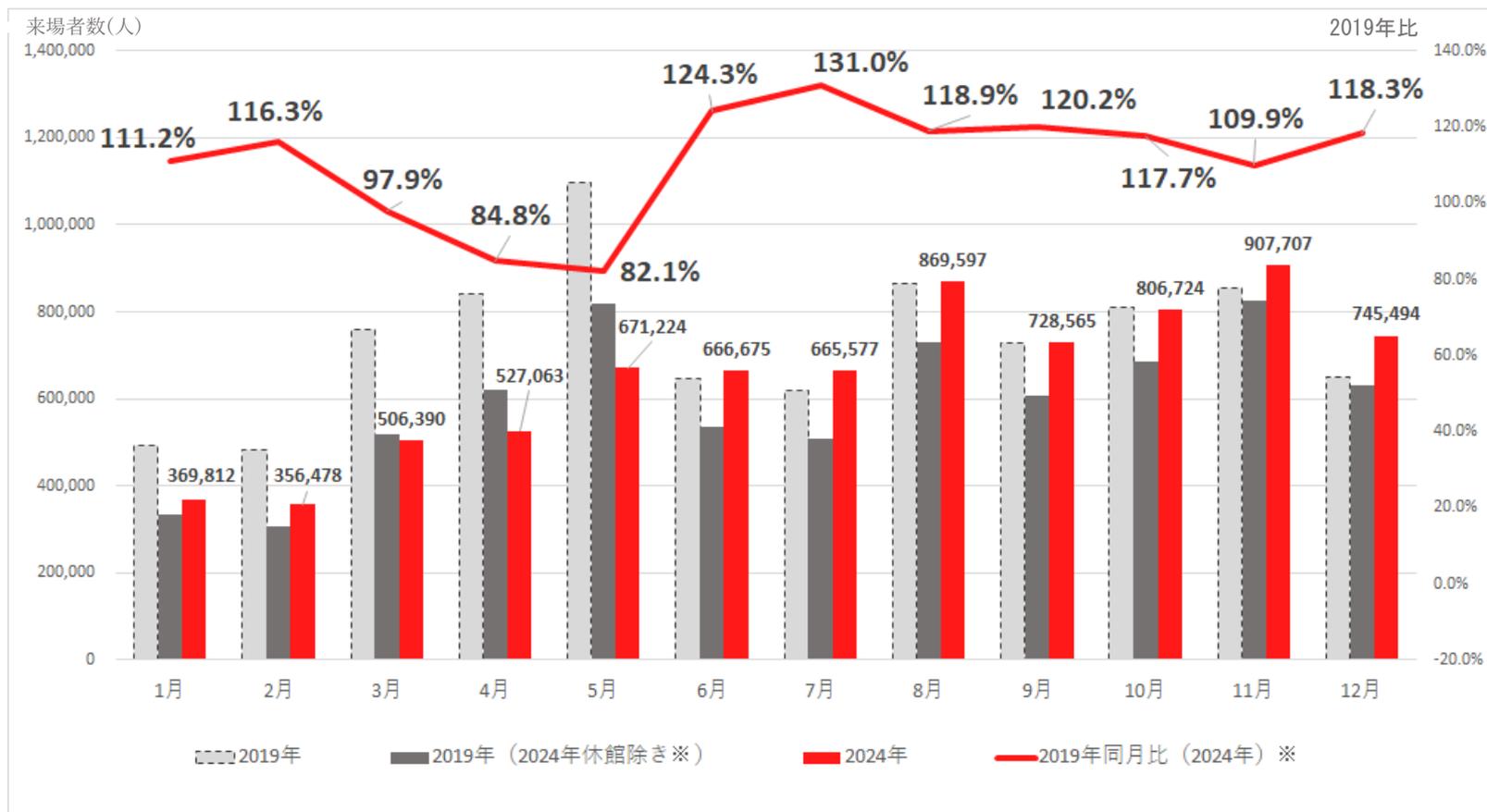


観光案内所を訪れるインバウンド観光客の国別傾向を見ると、**3案内所の合計ではアジア圏からの来訪が全体の67%を占める**。中でも中国が15%を占めており、**中国本土からの観光客の増加**がうかがえる（前年は台湾が最多）。

東南アジアでは、**タイやシンガポールからの来訪が多く見られた**。アジアに次いで多かったのがヨーロッパ圏で、特に**フランスからの来訪が目立っている**。

なかでも**新神戸案内所は特徴的な傾向を示しており**、アジアからの来訪が全体の37%にとどまる一方で、ヨーロッパ・北米・オセアニアなど**欧米豪からの来訪が35%を占めており**、他2案内所と比較して高い割合となっている。これは、JRパスなどを活用して新幹線で日本各地を旅行する**欧米豪の観光客にとって新神戸駅が神戸の主要な玄関口となっている**ことを示していると考えられる。

主要観光施設：来場者数 推移



出典：神戸市観光企画課・神戸観光局調査
 ※2019年比は、比較時点で改修中・休館中の施設を除いて比較
 ※2019年の来場者数は、2024年時点で改装中の施設を含んだグラフと、含まないグラフ両方を掲載。

年間の来場者数は、2024年時点で開館している施設ベースで2019年比を確認すると、3～5月を除くすべての月でコロナ前を超える回復を記録した。2024年と2019年の単純比較では、コロナ前を下回る月が多かったが、リニューアルオープンの施設がいくつかあったことから、6月以降は同数程度もしくは2019年の来場者数を上回る月が続いた。施設からは、インバウンド旅行者は徐々に戻ってきており、客層はアジア圏が多いが、欧米系や東南アジアからのお客様もちらほらいるという声があった。回復率（2019年比）は施設ごとに少しばらつきがある。多いところではコロナ前の1.4倍もの来場者数となっている施設も。

< 神戸観光局 Instagram (@kobe.kanko) 2024年度保存数ランキング >

TOP 1



2024/6/18

梅雨でも行ける
神戸の体験スポット3選

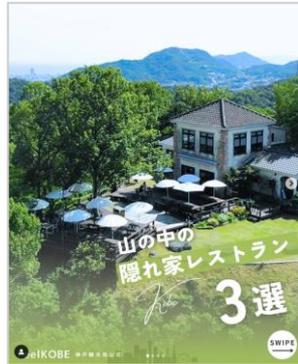
TOP 2



2025/3/26

坂のまち神戸

TOP 3



2024/9/10

山の中の隠れ家
レストラン3選

TOP 4



2025/2/12

バレンタインデートにおすすめ!
神戸の夜景スポット4選

TOP 5



2024/11/8

2024年11月8日(金)、
神戸北野ノスタがオープン

TOP 6



2024/12/18

神戸の冬を彩る
イルミネーション4選

TOP 7



2024/5/30

シャチのパフォーマンスが圧巻!
神戸須磨シーワールドがオープン!

TOP 8



2024/10/04

絶景を求めて!
秋の神戸でハイキング

TOP 9



2024/6/20

神戸の異人館でティータイム

TOP 10



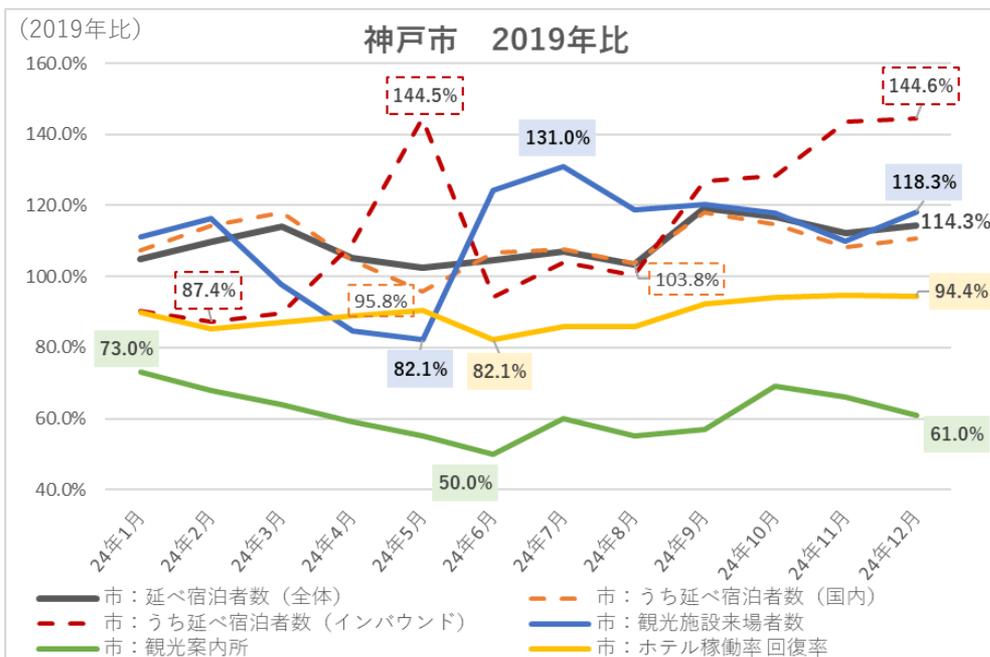
2024/12/24

開催まであと一か月!
「第30回神戸ルミナリエ」

- 神戸観光局が運営するInstagramでは、2024年度を通じてテーマ別の複数のスポットを紹介する投稿が多く、保存数を獲得。保存＝「後で見返したい」という心理の表れであり、こうした複数のスポットを同時に紹介する形式は、**神戸での過ごし方やその選択肢をイメージするのに効果的で、旅行意欲を直接喚起しやすかった**と考えられる。その他、リニューアルオープンした施設の情報が注目を集めた。
- 「夜景・イルミネーション・ルミナリエ」は「いいね数」でも上位を占めていることから、特別な時間・体験への憧れを醸成し、ナイトタイムエコノミーの促進にも有効であると考えられる。

コロナ禍からの回復率

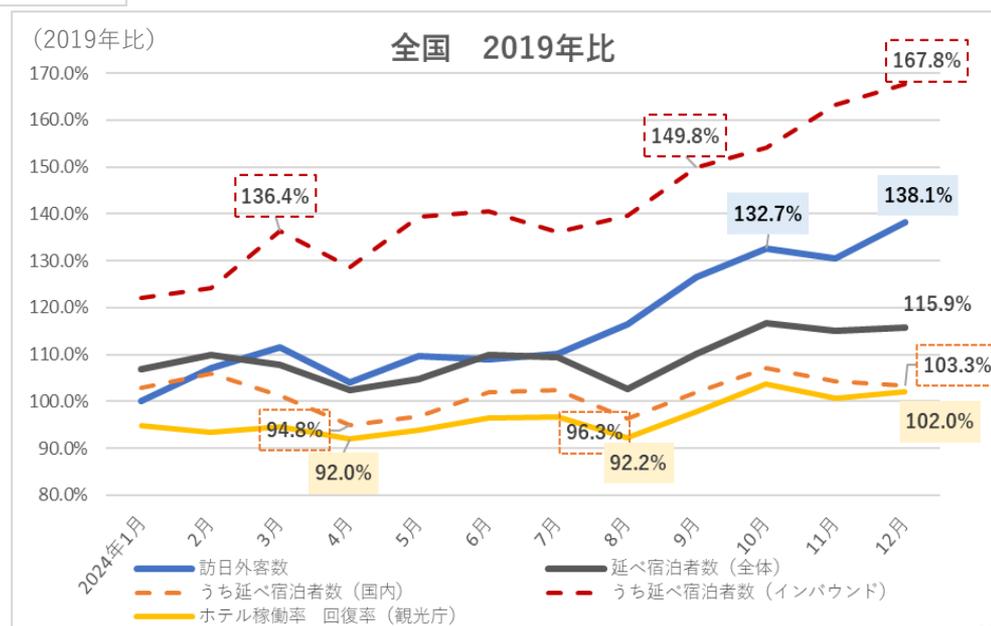
コロナ禍からの回復率まとめ（各種データ2019年比）



宿泊・ホテル稼働率・観光客数・観光案内所の回復率のみ。

※すべての項目の回復率をまとめているわけではない

- 神戸市の2024年はインバウンドの回復が顕著。インバウンドが増加する中で、連動してホテルの客室稼働率もじわじわと回復しているのが分かる。
- 全国では、インバウンド・訪日外客数の伸びが著しい。全国のホテル客室稼働率は、インバウンドが増えるにつれて回復が加速。
- 国内旅行者の動きは、2019年から大きな変化はなかったが、神戸・全国ともに、4・5月、8月の宿泊者数が2019年を下回り、伸び悩んでいる。



アンケートご協力のお願い

「2024年 神戸観光年間レポート」をご覧ください、誠にありがとうございます。

神戸観光局では、観光関連データやトレンド、各種トピックスなどをまとめた「マンスリーレポート」を、毎月会員の皆様へ配信しております。

今後、さらに有益で充実したレポートをお届けしていくために、皆様の率直なご意見をお伺いしたく、アンケートへのご協力をお願い申し上げます。「こんな情報があれば活用しやすい」「この部分をもう少し詳しく知りたい」といったご要望やご感想をお聞かせいただけましたら、今後の改善に活かしてまいります。

▼ アンケート回答はこちら

<https://forms.gle/os1DQ94X7YLoDNxe9>

※ 所要時間：5分程度、匿名回答

※ ご回答期限：2025年 6月30日（月）



なお、「マンスリーレポート」の配信をご希望の方は、神戸観光局会員へのご入会が必要となっております。ご関心のある方は、ぜひお気軽にお問い合わせください。（[神戸観光局会員 入会案内](#)）

今後とも、何卒よろしくお願い申し上げます。

一般財団法人 神戸観光局 経営推進部 マーケティング担当
TEL：078-855-1631（直通）
Email：kobe-dmo@kcva.or.jp

神戸観光局マーケティング情報

2 0 2 4 年
神 戸 観 光
年間レポート